

# 1. 2010年度の事業報告

## 活動の概要

### ○2010年度業務計画書

2010年度における業務計画の内容については、資料編を参照していただきたい。それをもとに、当該年度の活動状況を報告する。

### ○2010年度の活動概要

具体的な活動概要については、後述の第1業務、第2業務、第3業務の活動概要報告に譲るが、全体的な視点から本機構の活動について総括する。

第1業務では、日本常民文化研究所所蔵資料である漁業制度資料とアチックミュージアム写真資料のデジタル化を進めている。前者については、第2業務の共同研究1-2「日本列島周辺海域における水産史に関する総合的研究」プロジェクト班が研究資料として利用しているため、県別に分類されている資料のうち同プロジェクト班が必要とする岡山県・山口県・島根県・長崎県などを優先的にデジタル化して、その筆写稿本の複製本を提供している。

また、同様に、4-1「アチックフィルム・写真にみるモノ・身体・表象」プロジェクト班がアチックミュージアムの写真資料の追跡調査を行っており、薩南十島の中之島と台湾パイワン族の映像と画像資料を現地に持参して調査を行っている。その基礎データである画像のデジタル化を進めており、これも共同研究との協働が順調に行われたと評価できる。

このように、第1業務では、共同研究の基礎資料作成の役割を遂行できたとともに、その他の資料に関するデジタルデータ化を継続している。しかし、最終の目的は、これらデータの公開化であり、今後それに向けての規程や条件整備を進める必要がある。

第2業務では、各研究プロジェクト班の活動が順調に進んだだけでなく、いくつかのプロジェクト班による合同の調査研究もおこなわれ、プロジェクト班をつなぐネットワーク形成が推進されたといえる。また、研究成果中間報告という形で、国際シンポジウムと合わせて第3・第4・第5プロジェクト班による公開研究会が開催され、研究活動の推進だけでなく、それに基づく成果発表が同時並行で行われつつあることは、評価される点だと思われる。

さらに、8つの研究プロジェクト班相互のネットワーク形成と研究成果の作成に向けて、共同研究代表者会議を2月に2回開催した。この会議は、2009年度の本機構業務開始時に開かれたが、その内容は第2業務の説明会であった。2010年度における共同研究代表者会議では、まずそれぞれの研究班の研究状況を報告し、質疑応答が行われた。そして、2012年度以降の研究成果作成に向けて意見交換が行われた。今後の共同研究者間のネットワーク形成と研究成果作成に関する意見が積極的に出され、本機構の運営に方向性をもたらす有意義な会議であった。この会議は、2009年度の説明会から第2業務の相互交流と将来の見

通しについて検討する会議として展開している。今後は2010年度に引き続き、研究者相互のネットワーク形成と成果報告の方法をテーマとして継続して開催していくこととなった。

第3業務では、海外ネットワーク形成の一環として、韓国国立木浦大学校島嶼文化研究院との協定締結に向けての調整を行った。その結果、年度は跨ったが、2011年4月に協定締結が実現した。また、神奈川大学とブラジルサンパウロ大学の大学間協定が締結され、それを受けて本機構及び日本常民文化研究所とサンパウロ大学日本文化研究所との協定締結に向けての協議が開始された。

公開研究会は、2010年度に通算2回目から4回目と合計3回開催された。回数からみると、充実したといえる。さらに、第4回目は『『歴史知識学』の創成研究』という講演内容が幅広かったこともあり、参加者総数48名のうち一般参加者が29名で、全体の6割強であった。一般参加が急増したことは、社会への貢献度が増したことになり、今後とも一般参加の呼びかけを強化することを方針として位置付けることとした。

活動成果の情報化と公開化は、本機構の重要な使命の一つである。2010年度には、年報第1号と国際シンポジウム報告書の第1号が発刊された。年報には、プロジェクト研究活動報告編で共同研究者のほぼ全員が執筆しており、そのほか5本の論文が掲載されている。国際シンポジウム報告書第1号は、「海民・海域史からみた人類文化」と題して17名の論考が収められており、いずれも充実した内容となっている。

さらに、ホームページは日本語版と英語版が公開されており、その内容も順次更新されて、最新の情報を提供している。また、ホームページの多言語化が計画されており、中国語版と韓国語版が予定されていたが、実現に至らなかった。早めに公開できるよう引き続き努力が必要といえる。

総じて、業務計画の内容はほぼ達成されたといえる。共同研究代表者会議など、計画以上の成果もあり、2010年度における本機構の業務は順調に遂行された。今後は、業務の着実な進展と2012年度以降の研究成果報告の方法、さらに2014年度以降の本機構の組織的位置づけと活動内容などの見通しについて検討が必要となる。

(小熊 誠)

## 1) 所蔵資料の情報共有化 業務報告

「国際常民文化研究機構」の事業内容のうち、第一業務「所蔵資料の情報の共有化」では、日本常民文化研究所とCOEプログラムの後継組織である非文字資料研究センター（常民研付置）が所蔵する諸資料を広く社会に公開、提供するため、その情報の共有化と発信を促進することを目的としている。中核となる常民研は、長年の研究活動により日本の歴史・民俗に係わる生活資料を多方面から発掘し、とくに、漁業制度資料調査による筆写稿本の原稿約30万枚をはじめ、常民生活絵引原画、アチック写真、民具の全国調査データベース、民族学振興会関係資料など、世界的にも価値の高い諸資料を収集、所蔵している。

第1業務では、こうした諸資料をデータベース化し、国内外の研究コミュニティに公開、共有化することによって、新たな研究分野の開拓とさらなる研究の進展、深化を図ること

になる。本機構の開始以後、第1業務は歴史関係資料と民俗関係資料の二つの部門に別れ、それぞれの担当者が専門性を活かしながら事業を推進してきた。2009年度～2010年度にかけて進めた主な業務は、歴史関係資料では漁業制度資料のデータベース化、民俗関係資料ではアチック写真のデータベース化に関する作業である。以下、1. 漁業制度資料、2. アチック写真に分け、進捗状況も含めて業務報告を行うこととする。

(田上 繁)

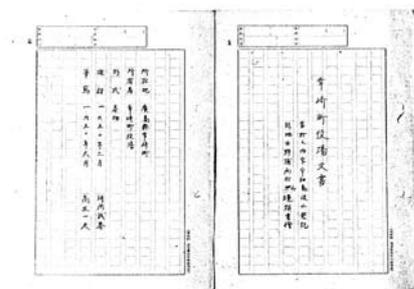
## 1. 漁業制度資料

### (1) 漁業制度資料の保存と整理

戦後の混乱の余韻の残る1949年からおよそ5年間にわたって行われた「漁業制度資料調査保存事業」は、水産庁が財団法人日本常民文化研究所に委託して進められた。全国に散在する漁業・漁村資料の収集・保存を企図して、10名前後の調査員が全国各地の海岸線を歩き、その成果は、約30万枚におよぶ筆写原稿と約6万5千点の寄贈・寄託等資料として残され、いずれも独立行政法人水産総合研究センター中央水産研究所図書資料館と神奈川大学日本常民文化研究所に収蔵されている。国際常民文化研究機構の「所蔵資料の情報共有化」業務では、これらの資料のうち、特に筆写稿本について研究資料としての有効利用の方法を模索しつつ、共同研究班への資料提供を通して、新たな研究課題・



筆写稿本(写真は神奈川大学日本常民文化研究所所蔵本)



筆写された原稿(1)

利用方法の糸口を得ることを目的としている。筆写資料には、北は北海道から南は鹿児島まで、約700資料群、原稿用紙(250字)で30万枚におよぶ海岸沿いの旧家・漁業協同組合・市町村役場等から収集した近世・近代の漁業・漁村関係資料が含まれている。

これらの筆写資料を研究資源として活用するために、次の4段階の工程を考えた。



筆写された原稿(2)

### ① 写真撮影・デジタル化

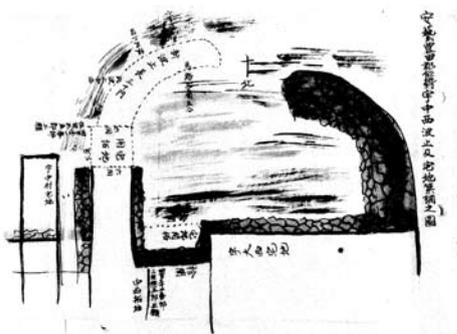
神奈川県日本常民文化研究所所蔵の筆写稿本マイクロフィルムを、事業の進行に合わせて順次デジタル化する。2009年度～2010年度は、神奈川県日本常民文化研究所の共同研究との連動をはかるために、瀬戸内地方を優先的にデジタル化し、研究の進展に合わせて順次他地域の資料をデジタル化する。

### ② 概要目録

資料群ごとの基本情報（資料群名・採訪時期・採訪場所等）について目録化する。中央水産研究所図書資料館の委託業務として、神奈川県日本常民文化研究所が作成し、2011年度中に刊行が予定されている。

### ③ 詳細目録

筆写稿本の資料1点ごとの詳細目録化。項目は標題・作成年・作成者・宛名・絵図類の有無等。



筆写稿本に挿入されている絵図原稿

### ④ 図像資料の写真撮影とデジタル化・目録化

筆写稿本に含まれている漁場図・漁具図等の彩色された図像資料を写真撮影し、デジタル化し目録を作成する。

機構の業務としては、上記の①③④の作業を順次進めていきつつ、共同研究班に向けて情報を提供し、さらにウェブサイト上で公開することで、利用者の一層の利便性を図ることを目的とする。

## (2) 2009年度－2010年度の作業状況

2009年8月に国際常民文化研究機構が発足すると、ただちに「所蔵資料の情報共有化」業務の「漁業制度資料」資料化作業に着手した。まず過去に蓄積している作業を確認し、今後行う必要のある作業の内容を整理して優先順位を付けた。日本常民文化研究所の共同研究の対象となっている瀬戸内海沿岸地域から採訪した資料群から、順次デジタル化・詳細目録取りを行うこととし、愛媛県に着手した。その際、作業上の留意点を、適宜関係者間で打合せを行って確認した。2009年度から2010年度の2年間で、上記③の詳細目録作業が終了した地域および資料群名を以下に掲げる。

2009年度

愛媛県の資料群一覧

	資料群名	採訪時住所	文書 点数	絵図 有無	稿本番号*	概要*
1	西中島村役場文書	愛媛県温泉郡中島村	4		1626 ~ 1627	< 1 >
2	中島町役場文書	愛媛県温泉郡中島町	3		1628	< 2 >
3	二神道夫家文書	愛媛県温泉郡神和村	17		1629 ~ 1630	< 3 >
4	元怒和漁業協同組合文書	愛媛県温泉郡神和村	2	○	1631	
5	二神漁業協同組合文書	愛媛県温泉郡神和村二神	3	○	1632	< 4 >
6	上怒和漁業協同組合文書	愛媛県温泉郡上怒和村	3	○	1633	< 5 >
7	藤井家文書	愛媛県西宇和郡川之石町	2	○	1634 ~ 1635	
8	川之石町漁業協同組合文書	愛媛県宇和郡島川之石町	1		1636	
9	三好八重家文書	愛媛県西宇和郡四ツ浜村	9		1637	
10	阿倍満家文書	愛媛県西宇和郡三机村	9		1638	
11	奥山義雄家文書	愛媛県西宇和郡三机村	1		1639	
12	山本隆一家文書	愛媛県西宇和郡神松名村	1		1640	
13	宇都宮たね子家文書	愛媛県西宇和郡神松名村	70		1641	
14	二名津区有文書	愛媛県西宇和郡神松名村	1		1642	
15	名取区有文書	愛媛県西宇和郡神松名村	6		1643	
16	井野浦区有文書	愛媛県西宇和郡三崎村	1		1644	
17	大佐田区有文書	愛媛県西宇和郡三崎村	1		1645	
18	佐田区有文書	愛媛県西宇和郡三崎村	1	○	1646	
19	加藤平馬家文書	愛媛県西宇和郡三崎村	3		1647	
20	北灘漁業協同組合文書	愛媛県西宇和郡北灘村	15		1648 ~ 1658	
21	谷山保山収集文書	愛媛県西宇和郡八幡浜市	40		1659	< 6 >
22	三机西若連中所有文書	愛媛県西宇和郡三机村	3		1660 ~ 1661	< 7 >

\* 文書点数にカッコがあるものは未確定

\* 稿本番号は神奈川大学日本常民文化研究所に収蔵されている筆写稿本の通番号

\* 概要欄の〈1〉～は、下記に資料群概要の記述のあるもの

(以下同様)

**【愛媛県の資料の概要】**

〈1〉西中島村役場文書 (1626 ~ 1627)

4点。明治24年「漁場慣行」、明治36年「漁業組合設置ニ関スル一件書類」、明治36年「専用漁業免許願 本村組合以外ニ係ル分」、明治36年「慣行ニ因専用漁業免許願書」を収める。

〈2〉中島町役場文書 (1628)

全3点。天正15年の「風早郡忽那島長師村御検地帳」のほか、文政12年の同郡宮野村の地坪関係の書付が収められている。

〈3〉二神道夫家文書 (1629 ~ 1630)

全17点。伊予国二神島を拠点に活躍した二神家に伝来した古文書群。筆写稿本には、近世の二神家の庄屋としての事績、由利島をめぐる書付などが収められている。

〈4〉二神漁業協同組合文書 (1632)

全3点。明治9 ~ 43年の入会漁場慣行や専用漁業免許願書などが収められている。

〈5〉上怒和漁業協同組合文書 (1633)

全3点。明治9 ~ 39年の入会漁場慣行や専用漁業免許願書などが収められている。

〈6〉谷山保山収集文書 (1659)

全92点。愛媛県八幡浜市の谷山保山が収集した寛文年間から昭和10年代までの史料群。「中津川村旧組頭菊池家文書」のほか、三崎浦・川之石浦・喜木津浦・宮内村などの村方文書や鯛網・網代・網船などにかかわる史料、さらに保山自身が編んだ「八幡浜地方織物の沿革」がある。

#### 〈7〉三机西若連中所有文書（1660～1661）

3点。西若連の規約書などが収められている。1626～1627 西中島村役場文書4点。明治24年「漁場慣行」、明治36年「漁業組合設置ニ関スル一件書類」、明治36年「専用漁業免許願 本村組合以外ニ係ル分」、明治36年「慣行ニ因専用漁業免許願書」を収める。

広島県の資料群一覧

	資料群名	探訪時住所	文書 点数	絵図 有無	稿本番号*	概要*
1	草津魚商仲買組合沿革史	広島県広島市	1		1485	< 8 >
2	草津水産試験場文書	広島県広島市	6		1486	< 9 >
3	坂町郷土誌	広島県安芸郡坂町	2		1487	<10>
4	江田島役場文書	広島県安芸郡江田嶋村	1		1488	<11>
5	丸谷義一家文書	広島県安芸郡江田嶋村	2	○	1489	<12>
6	中井壯助家文書	広島県安芸郡江田嶋村	1		1490	<13>
7	音戸漁業組合文書	広島県安芸郡音戸町	1		1491	<14>
8	音戸漁業協同組合文書	広島県安芸郡音戸町	1		1492	<15>
9	倉橋嶋村役場文書	広島県安芸郡倉橋島村	2	○	1493～1494	<16>
10	倉橋島誌	広島県安芸郡倉橋島村	1		1495～1496	<17>
11	下蒲刈漁業協同組合文書	広島県安芸郡下蒲刈島村	8		1497	<18>
12	津田馨家文書	広島県佐伯郡中村	44		1498～1499	<19>
13	佐伯漁業調査	広島県佐伯郡	4	○	1500	<20>
14	野間克郎家文書	広島県佐伯郡沖村	5		1501	<21>
15	幸崎町役場文書	広島県豊田郡幸崎町	18	○	1502～1505	<22>
16	黒川和雄家文書	広島県豊田郡吉名村	6		1506～1507	<23>
17	吉名村役場文書	広島県豊田郡吉名村	3		1508～1509	<24>
18	高橋駒之輔家文書	広島県豊田郡豊浜村	11		1510	<25>
19	大崎下島漁業協同組合文書	広島県豊田郡豊浜村	7		1511～1512	<26>
20	大崎村役場文書	広島県豊田郡大崎南村	24		1513	<27>
21	正畑規矩家文書	広島県豊田郡大崎南町	4		1514	<28>
22	郡中島浦覚書	広島県	2		1515～1516	<29>

#### 【広島県の資料の概要】

##### 〈8〉草津魚商仲買組合沿革史（1485）

1点。標題通り。

##### 〈9〉草津水産試験場文書（1486）

6点。牡蠣養殖に関する書類のほか、宝暦13年「能美島志」などが収められている。

##### 〈10〉坂町郷土誌（1487）

2点。享保18年「船法度之事」、延享2年「神社再建 鯛網始由来 記」を収める。

##### 〈11〉江田島役場文書（1488）

1点。明治20年「江田島取締方始末書」。なお、これは、「丸谷義一家文書」（1489）No. 1と同内容。

##### 〈12〉丸谷義一家文書（1489）

2点。うち1点は「江田島役場文書」(1488)と同内容。残り1点は、正徳6年「江田島村之略図(大正4年写)」。

〈13〉中井壯助家文書(1490)

1点。宝暦3年「安芸郡 郡中并組合村々諸事覚書」を収める。

〈14〉音戸漁業組合文書(1491)

1点。明治45～昭和13年「(音戸町漁業組合総代会報告書等綴)」を収める。音戸漁業協同組合文書(1492)とは同一史料群。

〈15〉音戸漁業協同組合文書(1492)

1点。明治38～昭和12年「(漁業権契約書・嘆願書等綴)」を収める。音戸漁業組合文書(1491)とは同一史料群。

〈16〉倉橋島村役場文書(1493～1494)

(2)点。享保5年「御改御奉行宿之図」、享保9年「安芸国倉橋島諸色検出帖」を収める。なお、1493と1494は内容的には同一だが、綴じられ方など体裁が異なる。

〈17〉倉橋島誌(1495～1946)

1点。明治42年「倉橋島志(抄)」を収める。

〈18〉下蒲刈漁業協同組合文書(1497)

8点。明治36年「組合創立書類」、明治42年「総会議事録(昭和3年1月まで)」など同漁業組合の設立・運営に関する書類を収める。

〈19〉津田馨家文書(1498～1499)

全44点。年代が判明する限りでは、享保7年から明治23年までの文書を含む。近世文書では、佐伯郡中村坪崎の御建山関係、石井融通講などの金融関係、幕末から明治初頭にかけての社倉関係史料などが注目される。

〈20〉佐伯漁業調査(1500)

4点。宮本常一を調査者とした、昭和24年「広島市草津町養蛎調査(附 広島県水産試験場所蔵資料)」「広島県佐伯郡大野村丸林漁業調査」「広島県佐伯郡玖波町漁業調査」などの調査報告を収める。

〈21〉野間克郎家文書(1501)

全5点。点数は少ないが、元禄・享保期の西能美島是長村の人改帳・人牛馬改帳のほか、西能美島全体の基本データを知り得る西能美島村々万控帳など、注目すべき史料を含む。

〈22〉幸崎町役場文書(1502～1205)

18点。寛永頃から元禄のものとする「浮鯛抄」、明治3年「当村之内字宇和島 波止発記」をはじめとして、慶応3年「能地田埜浦両村山境談書絵図」のほか、寺社の境内絵図など絵図類を多数収める。

〈23〉黒川和雄家文書(1506～1507)

全6点。元禄6年「竹原一邑誌」、寛延4年「(芸備両国郡村々古城跡記)」、天保11年「三原日記」をはじめ、安芸の地誌・日記類が収集されている。

〈24〉吉名村役場文書(1508～1509)

3点。文政8年「本ひかへ 国郡志御編集下しらへ書出帳」、享保10年「豊田郡吉名村差出シ帳」、明治12年「神社明細帳」を収める。

## 〈25〉高橋駒之輔家文書（1510）

全11点。元禄10年から弘化2年まで。すべて近世文書。豊田郡豊田村の諸割付小日記、宗旨改帳、御免割帳など、村方基本帳簿のほか行路病死者、溺死者、難船などをめぐる諸書付、文政2年の「国郡志御用下しらへ帳」などがある。

## 〈26〉大崎下島漁業協同組合文書（1511～1512）

7点。明治19年「上浦漁場慣行届」「豊浦浦漁場慣行届」をはじめとした漁場慣行届のほか、明治36年「明治三十六年三郡漁業契約書」などを収める。

## 〈27〉大崎村役場文書（1513）

23点。寛永15～元禄6年にかけての地詰帳がある。また、明治期（2年）のものも1点あり。この他、差出帳など近世の帳面類が多数収められている。

## 〈28〉正畑規矩家文書（1514）

4点。寛永15年「安芸郡大崎嶋沖浦地詰帳」などの地詰帳、文政2年「国郡志御用ニ付下しらへ書出帳」が収められている。

## 〈29〉郡中島浦覚書（1515～1516）概数1点。廻船等に関する諸覚103点が綴られた帳面。

現時点では、点数は1綴として扱っている。

山口県の資料群一覧

	資料群名	採訪時住所	文書 点数	絵図 有無	稿本番号*	概要*
1	安岡漁業協同組合文書	山口県下関市	1		1517	
2	吉見漁業協同組合文書	山口県下関市吉見町	22		1518	<30>
3	江本新家文書	山口県光市	32	○	1520～1522	<31>
4	原安雄家文書	山口県大島郡沖浦村	3		1523	<32>
5	高井家文書	山口県大島郡油田村	25		1524～1525	<33>
6	白木村役場文書	山口県大島郡白木村	4	○	1526～1529	<34>
7	柳沢家文書	山口県大島郡安下庄町	1		1530	<35>
8	上関漁業協同組合文書	山口県熊毛郡上関村	4	○	1531～1532	<36>
9	佐川助三郎家文書	山口県熊毛郡佐賀村	18		1534	<37>
10	福永房雄家文書	山口県豊浦郡豊西村	140	○	1535～1537	<38>
11	立石漁業協同組合文書	山口県大津郡向津具村	1	○	1538	<39>
12	重岡蔵吉家文書	山口県大津郡向津具村	1		1540	<40>
13	大浦漁業協同組合文書	山口県大津郡向津具村	1		1541	<41>
14	中平菊之助家文書	山口県大津郡向津具村	2		1542	<42>
15	大藤定行家文書	山口県大津郡向津具村	1	○	1543	<43>
16	天野剛家文書	山口県大津郡向津具村	66	○	1544～1547	<44>

## 【山口県の資料の概要】

## 〈30〉吉見漁業協同組合文書（1517～1518）

全22点。慶長11年から大正5年まで。慶長11年の古文書は「豊西郡正吉浦 御役目定之事」。近世文書は吉見浦周辺海域における漁場出入や境立に関するもの、明治期の史料は入漁契約書などのほか、「公有寄洲」「水面埋立」の出願書類など。なお、1519は1518と重複。

## 〈31〉江本新家文書（1520～1522）

全32点。貞享3年から明治10年まで。室積室津の鰯に関する貞享3年の証文をはじめ、鰯や魷（イカ）の追込網の罟取り、追込網株などの売買などにかかわる近世の証書類が中心。

そのほか明和8年の「地下法写」などもある。

〈32〉 原安雄家文書 (1523)

3点。文政6年「塩浜石郡寄改帳 刀禰與兵衛組」のほか、「享保増補 村記 岩国庄之内 柱島」「柱島旧記」を収める。

〈33〉 高井家文書 (1524 ~ 1525)

全25点。寛永16年から嘉永4年までの近世文書。寛永の年記をもつ史料は2点あるが、いずれも公儀触の高札写し。異国船関連法令の写しや難船手形が多い。

〈34〉 白木村役場文書 (1526 ~ 1529)

4点。明治12年「水産業一件 (漁業取締一件、愛媛県より入漁一件、他県出漁願い、遠洋漁業一件、朝鮮近海通漁規約ほか綴り)」、明治33年「海豚捕獲一件刺〈ママ〉(海豚捕獲起業書類綴り)」、明治36年「漁業組合漁業権専用願一件」、明治36年「漁業組合設立一件」を収める。

〈35〉 柳沢家文書 (1530)

1点。宝暦12年「浦手形 (播州塩屋宗三郎船沈船破船につき)」を収める。

〈36〉 上関漁業協同組合文書 (1531 ~ 1532)

4点。昭和30年「熊毛郡共有慣行専用漁業 (四四五一号)」、「漁業上 入漁上 重要 契約書綴 (明治36年より昭和16年まで)」、昭和11年「漁具 船具 購買斡旋帳」、明治36年「鮑組規約 並 全上対 漁業組合 協定書」。なお、1533は1532と重複。

〈37〉 佐川助三郎家文書 (1534)

全18点。延宝2年から安永7年までの近世文書。延宝2年の室津浦網役の付立てにはじまり、佐合島の鯛網・鱈追込網・海老引網、あるいは御立浦島々の網についての文書が中核となっている。

〈38〉 福永房雄家文書 (1535 ~ 1537)

全140点。延享4年から明治35年まで。最古の延享4年付「(吉母浦・正吉浦海境ならびに獵場入相につき請状)」をはじめ、近世から近代にいたる吉母浦周辺海域における漁業権関係の史料が多い。福永家は豊浦郡吉母浦の庄屋や浦役人を勤めた家柄とみられ、吉見浦の明細帳や人別帳、諸職人改手形、さらに幕末には蓋井島波戸の築調関係史料などが残されている。

〈39〉 立石漁業協同組合文書 (1538)

1点。明治37 ~ 昭和21「(定置漁業免許願ほか漁業権関係書類一括)」を収める。なお、1539は複本。

〈40〉 重岡蔵吉家文書 (1540)

1点。大正時代の過去帳を収める。

〈41〉 大浦漁業協同組合文書 (1541)

2点。大正5、12年の同組合の決議録を収める。

〈42〉 中平菊之助文書 (1542)

1点。中平菊之助は大浦漁業協同組合長。内容は昭和10年以降の同組合の記録台帳。

〈43〉 大藤定行家文書 (1543)

1点。川尻捕鯨業調書を収める。

## 〈44〉天野剛家文書（1544～1547）

66点。元禄11年「鯨組取立覚書」のほか、ほとんどが川尻鯨組に関する（捕鯨）史料である。

2010年度						
岡山県の資料群一覧						
	資料群名	採訪時住所	文書 点数	絵図 有無	稿本番号*	概要*
1	岡貞四郎家文書	岡山県児島市	1		1403～1404	
2	西尾保平家文書	岡山県児島市	15		1405～1407	<45>
3	荻野休次郎家文書	岡山県児島市	10		1408	<46>
4	高本光雲家文書	岡山県児島市	3	○	1409～1410	
5	赤星昭家文書	岡山県児島市	35		1411～1415	<47>
6	下津井漁業協同組合文書	岡山県児島市	5	○	1416	<48>
7	岡山県児島市味野児島市役所文書	岡山県児島市	2		1417	
8	児島市役所下津井支所蔵文書	岡山県児島市	8	○	1418	
9	黒崎村共有文書	岡山県浅口市黒崎村	(106)		1419～1420	<49>
10	船津儔一家文書	岡山県小田郡神島内村	(41)		1421	<50>
11	妹尾功家文書	岡山県小田郡神島内村	11		1422	<51>
12	長安凱吉家文書	岡山県小田郡神島内村	16		1423	<52>
13	日生漁業協同組合文書	岡山県小田郡神島内村	(24)	○	1424～1436	<53>
14	日生町誌	岡山県小田郡神島内村	1		1437	
15	牛窓町役場文書	岡山県邑久郡牛窓町	56		1438	<54>
16	三宅久次郎家文書	岡山県小田郡真鍋島村	72		1439～1440	<55>
17	真鍋漁業協同組合文書	岡山県小田郡真鍋島村	141		1441～1442	<56>
18	山下風美男家文書	岡山県小田郡真鍋島村	1		1443～1444	
19	真鍋島役場文書	岡山県小田郡真鍋島村	2		1443～1444	
20	真鍋増太郎家文書	岡山県玉野市	(409)	○	1445～1469	<57>
21	真鍋家文書	岡山県	未着手		1470～1474	
22	真鍋島検地帳	岡山県小田郡真鍋島村	未着手		1475～1476	
23	真鍋龍太郎家文書	岡山県小田郡真鍋島村	(183)		1477～1479	<58>
24	真鍋漁業組合文書	岡山県小田郡真鍋島村	3		1480	<59>
25	真鍋島文書	岡山県	5		1481	<60>
26	真鍋漁業協同組合文書	岡山県小田郡真鍋島村	(74)		1482～1483	<61>
27	真鍋嶋検地帳	岡山県小田郡真鍋島村	7		1484	<62>

## 【岡山県の資料の概要】

## 〈45〉西尾保平家文書（1405～1407）

全15点。元禄13年「児島郡長浜村定免相之事」が最古。明和8年から天保2年まで7冊の「諸御用留帳」が揃っている。近代でも地誌・由緒関係の史料のほか、明治17年の「大風 高浪家屋船舶大破災害 人別御救助上願元簿」などは注目される。

## 〈46〉荻野休次郎家文書（1408）

全10点。文政9年から明治元年までの近世文書。渡海株・仲仕株に関わる文書のほか、下津井村湊普請の拝借銀願書などを含む。

## 〈47〉赤星昭家文書（1411～1415）

全35点。宝暦13年の「帰帆春 朝鮮人御用浦加子切手留控」が最も古い。幕末の凌波隊関係、玉垣寄進帳、祭祀関係の儀式書などが目を引く。

## 〈48〉下津井漁業協同組合文書（1416）

全5点。明治18年から同44年までの下津井町の漁業権協定関係の書類。一部は昭和6年まで及ぶ内容をもつ。

〈49〉黒崎村共有文書（1419～1420）

概数106点。元禄7年「戌年御物成割付之事」、宝暦4年「戌年御年貢可納免定之事」、寛政2年「酉年年貢皆済目録」など貢租に関する書付のほか、明和5年「御普請出来形帳」をはじめとした普請（作事）関係の書付から、明治期の土木費などに関する書類もある。この他、寛政9年「勇崎村當村水論一件」の水論や安政6年「差入申詫書一札之事（小原浦漁師の禁漁場における漁業稼ぎの件につき）」など漁場争論に関する書付も収められている。

〈50〉船津儔一家文書（1421）

概数41点。安政2年～明治20年代にかけての史料が含まれる「広島深沼漁場関係書類」など漁場（争論）に関する書類が収められている。

〈51〉妹尾功家文書（1422）

11点。寛政7年「村中掟」、安政7年「五人組御改帳」、賭博・欠落・家出に関する書付などが収められている。

〈52〉長安凱吉家文書（1423）

16点。元禄～万延にかけての年貢割付など貢租関係のほか、年不詳「差上申済口証文之事（横嶋村より富岡村に対する立（建）干網に関する出入につき内済証文）」、「指入申詫書一札之事（笠岡御支配所御運上場所海面立入につき）」などが収められている。

〈53〉日生漁業協同組合文書（1424～1436）

概数24点。明治9年「福浦村人民漁業強願一件留」、明治16年「福河村大字福浦ト坪網事件ニ関スル願出伺指令綴」など漁業争論に関する書類のほか、引継目録などを含む、昭和2年「要書類綴」など、同組合に関する書類が収められている。

〈54〉牛窓村役場文書（1438）

全56点。慶長11～12年の牛窓村免定、寛永4年から天保10年にいたる「邑久郡牛窓村定免相之事」などが注目される。村方の重要史料として保管伝来したものだろう。

〈55〉三宅久次郎家文書（1439）

全72点。万治元年から幕末、明治までの古文書。ほとんどが備中国小田郡六島浦にかかわる近世文書。難船の浦証文が質量ともに特筆される。

〈56〉真鍋漁業協同組合文書（1441～1442）

全141点。宝永4年から大正6年まで。近世文書は、真鍋島漁師が西浜村、鞆津、江浦、正頭村などの漁師たちと争った、いわゆる網方出入にまつわる史料が多い。明治以降では、養牡蠣、蛸縄漁業、流瀬網漁業などの規約書、あるいは入会漁場の協定書などがみられる。真鍋漁業協同組合文書は、近世から近代へいたる真鍋島周辺海域の利用状況を理解し得るよい手掛かりといえる。

〈57〉真鍋増太郎家文書（1445～1469）

寛永年間から明治期の漁業関係文書。真鍋島周辺海域における鯛網・烏賊引網などをめぐる漁場出入の書付が多い。近隣の漁民のほか紀州漁民の関与も確認できる。

〈58〉真鍋龍太郎家文書（1477～1479）

元禄頃から明治期の史料を収める。内容は、漁業関係文書に留まらず、宗門手形帳や年

貢割付帳・小入用帳、風土記書上帳など多岐にわたる。

〈59〉真鍋漁業組合文書（1480）

3点。明治末から大正初めの同組合総会決議録・選挙録・委任状などが収められている。

〈60〉真鍋島文書（1481）

5点。享保19～天明8年にかけての差出明細帳・反別帳が収められている。

〈61〉真鍋漁業協同組合文書（1482～1483）

概要を確認。データ入力はこちらから。

〈62〉真鍋嶋検地帳（1484）

7点。元禄13～文化14年にかけての検地帳が収められている。

島根県の資料群一覧

	資料群名	探訪地住所	文書 点数	絵図 有無	稿本番号*	概要*
1	島根県庁文書	島根県松江市	20		1360～1364	〈63〉
2	賣布神社文書	島根県松江市	3		1365	〈64〉
3	桑原趙夫家文書	島根県浜田市			1366～1369	〈65〉
4	濱田御領内村附之覚	島根県	1		1370	〈66〉
5	島根県那賀郡周布村津摩浦文書	(島根県浜田市)	2		1371	〈67〉
6	桑原趙夫家文書	島根県浜田市	3		1372	〈68〉
7	美保関町役場文書	島根県八束郡美保関町	14		1373	〈69〉
8	鷗鶴義男家文書	島根県八束郡美保関町	5		1374～1376	〈70〉
9	内田鼎吉家文書	島根県八束郡美保関町	19		1377	〈71〉
10	八束村役場文書	島根県八束郡八束村	9		1379	〈72〉
11	福浦漁業協同組合文書	島根県那賀郡三保村	4		1380	〈73〉
12	湊浦漁業協同組合文書	島根県那賀郡三隅町	1		1381	〈74〉
13	和泉林市郎家文書	島根県簸川郡北浜村	9		1382	〈75〉
14	谷田重矩家文書	島根県那賀郡国府村	37		1383	〈76〉
15	唐鐘漁業協同組合文書	島根県那賀郡国府村	10		1384	〈77〉
16	池上但馬家文書	島根県那賀郡国府村	5		1385	〈78〉
17	鈴木芳郎家文書	島根県那賀郡三保村			1386	〈79〉

【島根県の資料の概要】

〈63〉島根県庁文書（1360～1364）

総点数20点で、明治の大小区制時代の「漁場拝借願書」、「海藻拝借願書」などの漁場に関する願書類と、漁業場区の台帳数点からなる。

〈64〉賣布神社文書（1365）

文政元年「永代略記」、年不詳「末次漁師由来書差上帳」、「一古伝祭ノ行事 賣布神社祭典儀式帳写」の神社に関する由来記など3点のみである。

〈65〉桑原趙夫家文書（1366～1369）

宝暦9年「御條目写」を最古として、嘉永、文久、慶応の幕末期を含む年貢関係や御用留など江戸期の資料群である。中でも文久元年「英国人海路測量ニ付 地浦御用掟」は特筆される。

〈66〉濱田御領内村附之覚（1370）

年不詳「濱田御領内村附之覚」の1点のみである。

〈67〉島根県那賀郡周布村津摩浦文書（1371）

いずれも明治24年11月の「明治八年以前 漁場慣行調査書 浦控」と「面并釣具構造図面」の2点である。

〈68〉 桑原越夫家文書（その他）（1372）

3点で、前出1366-1369の桑原越夫家文書のその他の分で、いずれも明治24年11月のものである。「漁場慣行調査ニ関スル旧記 規約書謄本」など漁場慣行調査書2点と「海面并釣具構造図面 浦控」1点が収められている。

〈69〉 美保関町役場文書（1373）

文化・文政期以降明治中期までの漁業慣行を中心とする文書群であり、総点数は14点を数える。文化13年「大根島藻取船差留御札ニ付返答書」や元治1年「旧藩俵物上納控帳」など興味深い文書が含まれる。

〈70〉 鷓鴣義男家文書（1374～1376）

5点であり、そのうち年号の判明するのは明治24年の「島根鳥取漁業交渉事件協議日記」と「上伸書控（美保関村に関する書上）」である。

〈71〉 内田鼎吉家文書（1377）

19点で、天保10年「売渡シ申一札之事（網場所売り渡しにつき）」が最も古く、そのほか嘉永、安政など幕末期のものと明治初年段階文書で構成される。漁網や魚類などを質物にした借用証文や鯡メ粕売買帳などが注目される。

〈72〉 八束村役場文書（1379）

総点数9点のうち、年代判明分の3点は寛政9年の大根嶋へ伯耆国浜目の者が藻取りにやってきた事実を示す届書や、同じく文化期の藻取りに関する書状類などである。

〈73〉 福浦漁業協同組合文書（1380）

総点数4点。年代判明分の3点は明治10～38年の漁業慣行調査書や鰯網漁許可に関する書類などである。

〈74〉 湊浦漁業協同組合文書（1381）

総点数1点で嘉永五年十月二十一日や文久一年十二月の絵図などを一括に収めたものである。

〈75〉 和泉林市郎家文書（1382）

総点数9点。このうち年代判明分7点は、宝暦14年「楯縫郡塩津浦万指出牒」を最古とし、いずれも江戸期のものである。また、年代不詳の2点「奉願口上之覚（流寄鯨につき、銀百七拾位上納で当浦へ下付願い）」「御請申上ル一札之事（朝鮮の漁船等漂流の節、懇切に救助いたすべき旨申渡につき）」を含め、内容は多彩である。

〈76〉 谷田重矩家文書（1383）

総点数37点だが、全て慶応4年「当村郷鑑取調書上」である。なお、点数が37点に及んでいるのは、村ごとに作成されているため。

〈77〉 唐鐘漁業協同組合文書（1384）

総点数10点。年代が判明しているものは全て江戸期のもので、そのほとんどが浦境争論に関係する史料である。ほかには元禄元年の大敷場書替に関する史料などが収められている。

〈78〉 池上但馬家文書（1385）

総点数5点。最も古いものは慶安2年「唐鐘より古証文之写（寄り物合力の儀につき連判状）」で、このほか年代が判明しているものには、天明3年の「大平山境御願申上願出並ニ書付差出候願書帳 下府村百姓惣代 五人組頭」、「口上書（下府村大平山へ植え継ぎの松、一昨年国分村にて抜き取りにつき御糺明願い）」がある。また、昭和16年「石見国府 下府村史 故蹟録」といったものも収められている。

〈79〉鈴木芳郎家文書（1386）は、現在作業中。

### (3) 共同研究班への資料提供

「プロジェクト型共同研究の推進」業務の進展に合わせて、筆写稿本の複製本を適宜共同研究班に提供している。主に、1-2「日本列島周辺海域における水産史に関する総合的研究」プロジェクト班の共同研究者に向けて、北海道・青森・千葉・新潟・石川・三重・兵庫・和歌山・鳥根・岡山・広島・山口・長崎・宮崎・鹿児島筆写資料のうち、研究に必要な資料群の複製本を作成して貸与した。これらの筆写資料は原資料の所在が分かっていないもの、あるいはすでに原資料が失われていることがわかっているものもあり、共同研究の進展につれて、原資料に関する現地の情報が機構に集約される機会ともなる。すでに「国際常民文化研究機構年報1」（2010年10月刊行）に、資料報告「鳥根県の『美保関漁場慣行調査書』」（伊藤康宏）が報告され、すでに原資料は失われているものの、筆写資料の詳細な調査を行って紹介している。

## 2. アチック写真

神奈川大学国際常民文化研究機構の役割として、日本常民文化研究所の所蔵する資料を研究者コミュニティに公開・共有化し、研究分野をさらに拡大、深化させることがある。本稿は、2009年度～2010年度にかけての「アチック写真」の公開および各共同研究班におけるその活用状況の報告である。

### (1) アチック写真の整理について

**整理前の状況** 神奈川大学日本常民文化研究所（以下、常民研）には昭和初期に撮影された日本・朝鮮・台湾各地の9000枚におよぶ写真や、30本を超える16ミリフィルムが所蔵されている。常民研の前身であるアチック・ミュージアムは、澁澤敬三が、物置小屋の屋根裏に植物の押し葉や貝の化石などを集めた彼の高校時代からはじまり、大学時代の同級生達と組織したアチック・ミュージアム・ソサエティが、大正14年（1925）にアチック・ミュージアム



図1 アチック写真

たアチック・ミュージアム・ソサエティが、大正14年（1925）にアチック・ミュージアム

(以下、アチック)と名称を変えてから、本格的な採訪調査や民具蒐集をはじめた。これらの調査・蒐集において、澁澤敬三らアチック同人は、カメラや16ミリフィルムによる積極的な映像撮影をおこない、後の資料整理や出版に向けた準備も怠らなかった。その際に撮影された膨大な量の写真(以下、アチック写真)は、常民研以外にも、昭和14年(1939)に東京保谷に設立された日本民族学会附属民族博物館の流れを汲む国立民族学博物館や、敬三の手紙やプライベート写真などの敬三の個人資料を収蔵する渋谷史料館、同人であった宮本勢助・馨太郎父子の資料を収蔵する宮本記念財団、そして国文学研究資料館などに残されている。アチック写真はこれまでも、歴史学・民俗学・民族学・人類学・社会学など、数多くの学問の貴重な資料としてその価値を見いだされ、研究資料として利用されてきた。しかし、これらは研究者間での利用に留まっていたのが実情で、一般に向けてのまとまった資料整理・公開は行なわれなかった。

写真に関するさまざまな情報は、アチック同人による著作物などから抽出することができるが、撮影から80年の間に、残念ながら写された場所や被写体が分からなくなってしまった写真も多数あった。しかし近年、この貴重な資料を整理し一般に公開して研究以外にも有効に活用したい、またそれによって不明となっている情報が少しでも明らかにできればということから、整理の済んだ部分については、冊子あるいはインターネット上での公開を始めた。国際常民文化研究機構共同研究での資料の活用もあり、地道かつ積極的な公開の結果、少しずつではあるが、撮影された写真に関する情報が地元や出身の方々から寄せられるようになってきている。



図2 アルバムと背表紙の拡大

「アチック写真」の名称について 従来「澁澤写真(仮)」と呼ばれることもあったが、澁澤敬三撮影以外の写真が多数を占めているということ、また、アチックとしての調査活動中に撮影された写真が大多数であることが判明したため、名称を「アチック写真」とした。

写真の形態と収蔵状況 およそ9000点のうち半分弱の4000点ほどはアルバムに綴じられており、アチックの調査ごとにまとめられている。多くの場合、台紙一枚に写真1点が貼られ、1冊に台紙数枚のものから100枚を超えるものまである。台紙には整理用の番号がスタンプされ、撮影場所、撮影日、被写体についての解説等が記入されていることが多い。台紙を中表紙

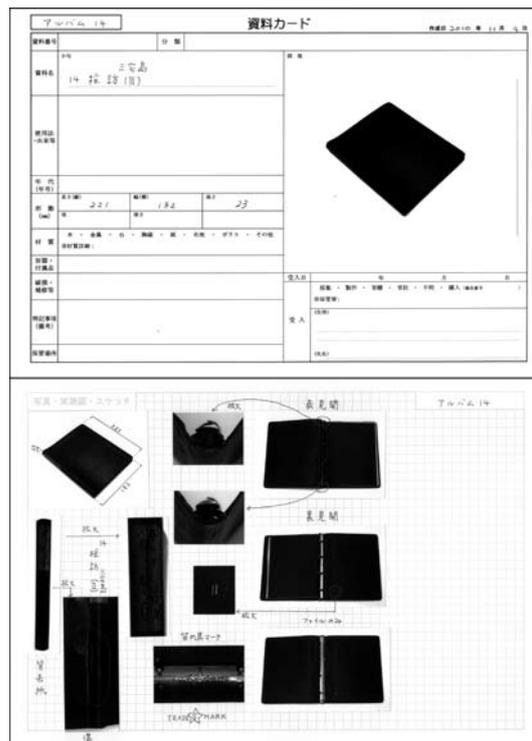


図3 解体したアルバムの記録

として使用したものや、写真が貼られていた形跡だけのものもある。また、残る5000点程は、財団法人日本常民文化研究所から引き継いだ時点で、アルバムから外された台紙やネガフィルム、ガラス乾板、出版物に掲載するための版下用として伸ばした写真などがイラストや手書きの原稿などと入り交じり、調査や出版物単位で封筒などにまとめられていたものである。以下に形態別の特徴を述べる。

**[アルバム]** 紙焼き写真が台紙に貼られ、アルバムに綴じた資料(図2)で、写真が貼られた台紙以外に、黒や青の間紙、中表紙などにも文字情報が記載されている場合がありこれらも資料として整理している。現在、背表紙の酸性紙ラベルが劣化し文字が読めなくなりつつあり、また綴じ金具の酸化による錆も進みつつあることから、台紙をアルバムから外し、1枚ごとに中性紙の封筒に移し替え、アルバム本体は中性紙箱に別々に収納する作業を行っている。同時に、劣化や破損といったアルバムの現状を記録する資料カードを作成している(図3)。

**[紙焼き写真]** 写真印画紙に印刷されたもの(図4)。被写体は調査先の人物や風景、民具などで、記念写真の焼き増しや、アチック刊行物の口絵に使われたものもあり、裏面にはその際のトリミングの指示や図版の番号が書かれているものもある。



図4 紙焼き写真と裏面の情報

**[ネガフィルム]** ケースや封筒、ネガ袋などに入れられたスリーブフィルムや中判サイズのカットフィルム(図5)。資料保存のため、中性紙の封筒に入れ替えており、ネガ袋や封筒に記入されている文字情報も資料として整理をしている。

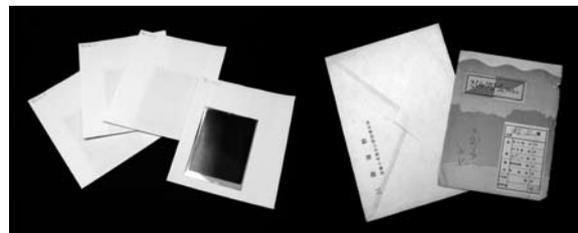


図5 ネガフィルムと情報が記されたネガ袋

**[ガラス乾板]** 透明のガラス板に感光する銀塩の乳剤を塗布して撮影した写真(図6)。ネガフィルムと同様に中性紙の容器に収納し整理をおこなっている。しかし、経年の劣化によりガラスが割れたり、乳剤面が剥離したりしているものもあり、そうした復元や修復処置の必要があるものは今回の資料整理の対象外としている。

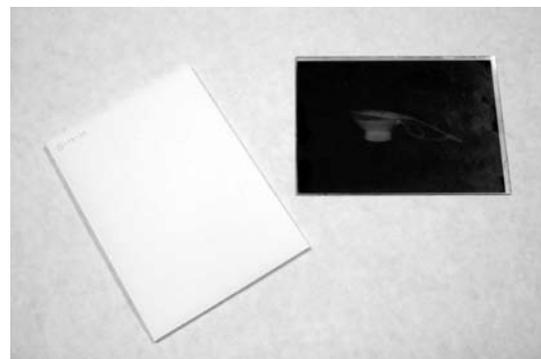


図6 ガラス乾板と中性紙容器

**写真整理の方法** はじめに、粗目録としてアルバムや封筒単位で、写真や台紙の枚数、背表紙や封筒等に記載された文字情報からおよその資料内容を把握した。これにより、アチック写真全体の概数や内容把握が可能となった。

次に、仮目録として写真1枚ごとに原資料から入力可能な項目を中心に目録を作成した。アルバムの背表紙・封筒・台紙・写真の裏面に記載された文字情報や、写真・台紙の法量（寸法）、付箋の有無といった、形態的特徴や物理的な情報を記録した。ここまでの整理では特に専門的な知識は必要とせず、入力の規則をまとめたマニュアルをもとに作業を進めることができた。これにより、調査や出版物ごとにおよそ何枚の写真があるかを把握することが可能となった。

これらを受けて、三段階目として本目録の作成を行っている。本目録とは、仮目録で得られた文字情報をもとに、撮影地・撮影日・撮影者に関する情報（台紙に記載がある場合は仮目録の段階で判明している）、出版物などへの掲載の有無、あるいは他の研究機関に所蔵されている同一の写真の情報（常民研所蔵のものとの同定、また追加文字情報の確認など）、常民研所蔵の16ミリフィルムの被写体との照合を行っている。またウェブサイト上での公開を考慮し、各種の検索に対応するため、写真一枚ごとにタイトルを付している。なお粗目録・仮目録については、後述のアチック写真ウェブサイトを通じてPDFデータにて公開し、本目録は整理の済んだ部分から順次、デジタル画像とともにデータベースに掲載している。

**情報の抽出・付加** 本目録の作成および写真タイトルを付すために、写真に見える場所・モノ・人・事に関する情報を抽出する。台紙や写真の裏面にそれらが記録されていない場合は、アルバムの前後の写真や出版物に記載された内容から、基本となる撮影日・撮影者・撮影地の3つの撮影情報を抽出していく。その後、当該写真を使用した刊行物や映像などの履歴情報も付与していく。

昭和12年5月に行われたアチックの瀬戸内海調査に関係する写真の整理を具体例として示しながら手順を紹介する。なお、3つの情報は並行して調査していることを付記しておく。

**[撮影日]**

撮影日は基本的に澁澤自身の手による旅譜を基にしている。これは澁澤の還暦記念に出版された写真集『柏葉拾遺』(中山、1956) や著作『犬歩当棒録』(澁澤、1961) に掲載されているもので、敬三の中学生時代から晩年までの旅の記録である。年月日、目的、同行者、経路、移動手段等が詳細に記録されており、写真の文字情報に撮影地が記載されていれば、多くの場合はここから撮影日が推定できる。しかし、この旅譜は、誤字脱字、手帳の紛失や記録（記憶）

5・14―22  
瀬戸内島嶼（磯貝、岩倉市郎、小川、桜田、高橋、宮本K、村上、山口和雄、武田明（以上東京）岡長平、高戸郁三、永山卯三郎、花田一重（以上岡山）宮本常一（大阪）結城次郎（広島）高野敏夫（高松）⑦  
岡山 〇〇八浜（灰貝、マッドスレー） 〇〇宇野 〇〇味野 〇  
（荻野正孝邸。福武丸乗船） ＊ ＊ ＊釜島 ＊ ＊ ＊与島 ＊ ＊ ＊岩黒島 ＊ ＊ ＊櫃石島 ＊ ＊ ＊下津井田ノ浦 〇（日笠裕太郎別邸） ＊ ＊ ＊六口島 ＊ ＊ ＊手島 ＊ ＊ ＊小手島 ＊ ＊ ＊佐柳島 ＊ ＊ ＊真鍋島 ＊ ＊ ＊小飛島 ＊ ＊ ＊大飛島 ＊ ＊ ＊走島 ＊ ＊ ＊魚島（仮泊） ＊ ＊ ＊高井神島 ＊ ＊ ＊股島 ＊ ＊ ＊伊吹島 ＊ ＊ ＊室浜 ＊ ＊ ＊志々島 ＊ ＊ ＊高見島（仮泊） ＊ ＊ ＊塩飽本島 ＊ ＊ ＊牛島 ＊ ＊ ＊沙弥島 ＊ ＊ ＊坂出 ＊ ＊ ＊瀬居島 ＊ ＊ ＊牛窓 〇 ＊ ＊ ＊前島 ＊ ＊ ＊豊島 ＊ ＊ ＊男木島 ＊ ＊ ＊女木島 ＊ ＊ ＊高松（解散） ＊ ＊ ＊宇野 〇 〇岡山

図7 『犬歩当棒録』の旅譜（瀬戸内海調査の部分）

違いにより必ずしも正確ではないので、同時にアチックの出版物や同人の著作にて確認する必要がある。

アチックの瀬戸内海調査では図7のような旅譜を敬三は残しており、この日付と、調査ノートをもとめて出版した『瀬戸内海島嶼巡訪日記』(アチック・ミュージアム、1940)、調査に参加したアチック同人磯貝勇による「中部瀬戸内海及び崎島旅行経過」(磯貝、1937)に見られる旅程との照合を行う。

【撮影者】

3つの撮影情報のうち、最も特定の困難なものが撮影者に関する情報であり、撮影者不明(推定不能)となることも少なくない。旅譜や関連の文献を確認し、まず調査参加者を把握するための調査動向を表にまとめる。ここでは、旅譜で示された移動行程について「月」「日」「曜日」「天気」「行き先」「発時間」「(2地点間の)行程」「着時間」「(移動)手段」「訪問地内の地名(目的・詳細)」「宿泊先」といった項目に加え、澁澤が参加したかどうか(アチック同人のみで調査に行く場合もあるため)をはじめその行程に同行した人物の確認をし、動向表の作成をおこなう(図8)。関連文献などに写真が掲載され、かつ撮影者名が記載されている場合、この動向表との照合・確認をし、撮影者の記載がない場合は、行程から写真を撮影することができた人物を絞り込み撮影者の推定をおこなう。少人数の調査であれば撮影者が特定できるが、大人数の調査団でカメラの台数が多い場合、特定には他の資料・文献等が必要となる。

1	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	
2	西暦	月	日	曜日	天気	行き先	発時間	行程	着時間	手段	訪問地内の地名(目的・詳細)	宿泊先	決行	同行者	同行者	同行者	同行者	同行者	同行者	同行者	同行者	
171	1937	5	19	水	晴	瀬戸内海	正午	高松市島田町		船(濠洲丸)			決行	磯貝勇	岩倉市郎	小川徹	櫻田勝徳	高橋文太郎	宮本馨太郎	村上清文	山口和雄	2
172	1937	5	19	水	晴	瀬戸内海		高松市島田町		船(濠洲丸)			決行	磯貝勇	岩倉市郎	小川徹	櫻田勝徳	高橋文太郎	宮本馨太郎	村上清文	山口和雄	2
173	1937	5	19	水	晴	瀬戸内海		高松市島田町		船(濠洲丸)	瀬田川(瀬田川)		決行	磯貝勇	岩倉市郎	小川徹	櫻田勝徳	高橋文太郎	宮本馨太郎	村上清文	山口和雄	2
174	1937	5	19	水	晴	瀬戸内海		高松市島田町	夕方	船(濠洲丸)			決行	磯貝勇	岩倉市郎	小川徹	櫻田勝徳	高橋文太郎	宮本馨太郎	村上清文	山口和雄	2
175	1937	5	19	水	晴	瀬戸内海		高松市島田町	2000	船(濠洲丸)			決行	磯貝勇	岩倉市郎	小川徹	櫻田勝徳	高橋文太郎	宮本馨太郎	村上清文	山口和雄	2
176	1937	5	20	木	晴	瀬戸内海		高松市島田町		船(濠洲丸)			決行	磯貝勇	岩倉市郎	小川徹	櫻田勝徳	高橋文太郎	宮本馨太郎	村上清文	山口和雄	2
177	1937	5	20	木	晴	瀬戸内海		高松市島田町		船(濠洲丸)			決行	磯貝勇	岩倉市郎	小川徹	櫻田勝徳	高橋文太郎	宮本馨太郎	村上清文	山口和雄	2
178	1937	5	20	木	晴	瀬戸内海		高松市島田町		船(濠洲丸)			決行	磯貝勇	岩倉市郎	小川徹	櫻田勝徳	高橋文太郎	宮本馨太郎	村上清文	山口和雄	2

図8 昭和12年のアチック・ミュージアム動向表(瀬戸内海調査関係部分)

瀬戸内海調査には澁澤のほか、東京からは磯貝勇・岩倉市郎・小川徹・櫻田勝徳・高橋文太郎・宮本馨太郎・村上清文・山口和雄・武田明が参加し、岡山からは岡長平・高戸郁三・永山卯三郎・花田一重、大阪から宮本常一、広島から結城次郎、高松から高野敏夫が参加している。訪問先の人々も多数関わってくるため、この動向表は、撮影者だけでなく被写体となっている人物の特定にも有効である。これまで澁澤については、経済人としての側面と学術研究面とが分けて捉えられがちであったが、この瀬戸内海調査でも、岡山県児島郡味野町出身の第一銀行荻野正孝氏宅を訪れているように、仕事としての出張の折に

学術研究に関する情報収集を行い、調査に際してはそうした人脈を活用している姿が窺える。写真整理に際してもその両面を考慮して情報の整理・処理をおこなっている。

### [撮影地]

撮影地の特定では、台紙や写真裏面に文字情報があれば、旅譜や動向表からでも特定は可能であるが、旅譜に示される地名は市町村名から大字小字レベルまで様々である。より視覚的に調査行程を把握するため、撮影地の特定には、地図を作成している。アチック・ミュージアム彙報・ノート内に地図が掲載されている場合はそれをもとに、掲載がない場合は動向表を白地図に落とし、移動行程を図示している。瀬戸内海調査については、前出の『瀬戸内海島嶼巡訪日記』に地図と行程が線で示されており、それを基に、調査日程ごとに新たに作成した地図が図9となる。これにより移動の手段（鉄道・自動車・船など）、一日の移動距離、寄港先が可視化され、被写体の（島や陸地の）位置関係から撮影地が特定できる場合もある。

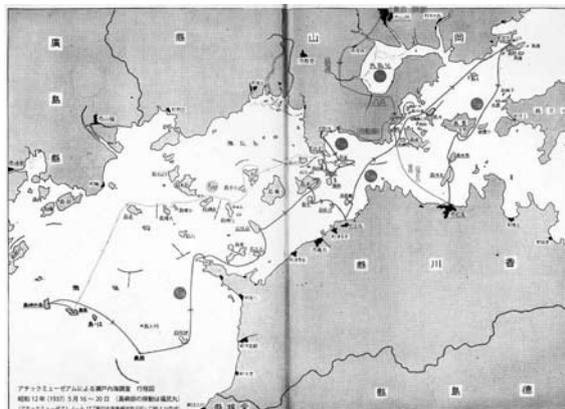


図9 昭和12年のアチックの瀬戸内海調査行程図

以上のように、撮影日・撮影者・撮影地の基礎的な撮影情報を把握し、場所・モノ・人・事などの情報を抽出し、写真タイトルを付与している。撮影者・撮影地が判明しない場合もあるが、「不明」を明らかにした上で公開を行うことで、一般からの情報提供を受け、将来的に「判明」となることを期待している。

また、瀬戸内海調査であれば、前出の磯貝勇「中部瀬戸内海及び崎島旅行経過」（磯貝、1937）や武田明「水上大学の頃」（武田、1973）などの参加者による著作、渋沢史料館所蔵の岡長平・高戸郁三・永山卯三郎・結城次郎ら現地の人々と澁澤の書簡、宮本記念財団に残る宮本馨太郎撮影の写真資料など、調査に関連する資料の把握を進めている。渋沢史料館所蔵資料では現地参加者の動向の把握を行った。また宮本記念財団所蔵の写真は常民研所蔵のものと同じであり、宮本馨太郎が帰京後に整理しアチックに提供したものと推察される。宮本は瀬戸内海調査のみならず、薩南十島・朝鮮・台湾・奥三河などアチックの他の調査活動にも深く関わっており、撮影情報の特定には欠かせないものである。この宮本記念財団所蔵の写真台紙に記載されている情報が常民研所蔵資料には記載されていない情報があるなど、写真の同定だけでなく新たな文字情報の付加をおこなった。

公開可能な部分についてはこのような他館所蔵資料情報も、公開している。

調査によっては、アチック写真に加えて16ミリフィルムで撮影した映像が残っている場合もある。ただし、映像タイトルや各場面のキャプション、調査行程図等の情報が入っているものもあれば、まだ粗編集といった段階のものもあり、映像によって編集の度合いが異なる。前者の場合はアチック写真の撮影日や撮影地の同定に利用可能である。しかし、後者の場合は逆にアチック写真や動向表・行程図から映像内容の特定を行うこととなる。

映像は写真と違って被写体を様々な角度から捉えてくれており、被写体の同定に大きな役割を果たすことがある。

その例として、図10は瀬戸内海調査で、5月16日に寄航した与島の3枚の連続写真である。写真には、文字情報がなく出版物にも掲載されなかったため撮影地が不明であったが、紙焼き写真の形態（縦横比）から宮本馨太郎撮影であると推定され、宮本記念財団所蔵資料を調査した結果、香川県坂出市の与島であることが判明した。このことにより写真中央の島は鍋島で、樹木のなかに見えるのは鍋島灯台と考えられる（財団法人日本離島センター、2004、355-357）。また、手前に鳥居が写っていることから、浦城集落の天津神社から撮影したものであることがわかる。また、図11は16ミリフィルム「塩飽1&2」の4分3秒の場面であるが、図10の撮影地点からやや左側で撮影されたことがわかる。なお、同フィルムはタイトルやテロップが無い粗編集のフィルムで、撮影地や内容がこれまで不詳であったが、このようなアチック写真との照合の結果、フィルムの内容も特定することができた。



図10 アチック写真に見える与島(昭和12年)  
(目録番号 左より、河1-22-49・河1-22-50・河1-22-5)

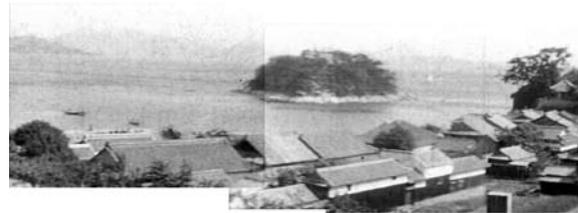


図11 16ミリフィルムに見える与島  
(常民研所蔵16ミリフィルム「塩飽1&2」04:03より)

## (2) アチック写真の公開について

**ウェブサイトとデータベース** アチック写真は前述したように専用のウェブサイトを通じ、粗目録と仮目録、および撮影情報の追跡調査が済んだ本目録のデータベースを公開している。2010年2月18日にウェブサイトを開設して以来、国際常民文化研究機構共同研究班による資料の活用もあり、2011年3月31日までに4,192アクセス、10,628ページビュー、23カ国からのアクセスを記録している。

また、ウェブサイトを通じてそれまで不明であった資料についての撮影情報が寄せられるようになった。図13は写真集『アチック写真』vol.3の刊行時には撮影地の詳細も撮影者も不明であったが、香川県高見島（写真左手奥）出身の方から連絡を受け、撮影地が香川県多度津郡佐柳島の長崎港であることが判明した。これにより動向表と



図12 アチック写真 ウェブサイト  
<http://aticblog.jominken.kanagawa-u.ac.jp/>



図13 撮影地が判明した写真(香川県佐柳島の長崎港)  
(目録番号 ア-100-12)

の照合が可能となり、撮影日は昭和12年5月17日であることがわかり、その結果、両島に関連する他の写真についても撮影情報の追加をすることができた。

『アチック写真』の刊行 写真の公開では、インターネットのほかに写真集『アチック写真』を刊行している（図14）。2010年度まで5冊を刊行した（表1）。現地調査の際に活用できるように質問形式としたもの（vol.1・2・4）、特定の地域を網羅的に掲載したもの（vol.3）、追跡調査で得られた詳細な情報を掲載したもの（vol.5）など、それぞれの編集方針は異なっている。また、専用ウェブサイトではPDF版の提供もおこなっている。



図14 アチック写真

表1 写真集『アチック写真』一覧

Vol.	内 容	写真枚数	ページ数
1	鹿児島県大島郡大和村（奄美大島）	69	38
2	鹿児島県十島村口之島（トカラ列島）	45	30
3	瀬戸内海沿岸（香川県・愛媛県・岡山県・広島県・山口県）	263	96
4	鹿児島県十島村中之島（トカラ列島）	69	38
5	三遠南信（愛知県・岐阜県・長野県）と、 吉野・熊野（奈良県・三重県・和歌山県）	162	112

### (3) 公開写真の利用について

#### ①神奈川大学国際常民文化研究機構・共同研究での利用

##### ◆2009年度

##### 研究グループ3-1. アジア祭紀芸能の比較研究

アジアの祭祀芸能の比較研究のため、2009年12月12日に神奈川大学で開かれた研究会において、昭和初期に撮影された奥三河花祭に関するアチック写真および16ミリフィルムの上映と内容解説をおこなった。翌日には、これらの資料に関わる愛知県東栄町中在家の花祭を調査した。

#### 研究グループ4-1. アチックフィルム・写真にみるモノ・身体・表象

昭和9年5月に行われた薩南十島（トカラ列島および奄美大島）調査の写真のうち、口之島に関する45点を、現地での追跡調査のために『アチック写真』vol.2にまとめた。2010年3月22日から25日に同島を訪れ、十島村立口之島小学校にてアチック撮影の16ミリフィルム映像とあわせて写真の上映会をおこなった際に、写真集を用いての聞き書き調査もおこなった。



図15 口之島での上映会の様子

#### ◆2010年度

#### 研究グループ1-3. 環太平洋海域における伝統的造船技術の比較研究

昭和9年5月に行われた薩南十島（トカラ列島および奄美大島）調査の写真のうち、マルキブネ、イタツケ等の、伝統的技術によって建造された船が写っているものを選び、その建造及び運用方法について、2011年1月20日～30日に、トカラ列島の小宝島と中之島の住民から聞き書き調査をおこなった。

#### 研究グループ4-1. アチックフィルム・写真にみるモノ・身体・表象

昭和9年5月に行われた薩南十島（トカラ列島および奄美大島）調査の写真のうち、中之島に関する69点を、現地での追跡調査のために『アチック写真』vol.4にまとめた。2011年3月18日から21日に同島を訪れ、十島村役場中之島支所（コミュニティセンター）にてアチック撮影の16ミリフィルム映像とあわせて写真の上映会をおこなった際に、写真集を用いて聞き書き調査もおこなった。



図16 中之島での上映会の様子

#### 研究グループ2-2. 東アジアの民具・物質文化からみた比較文化史

#### 研究グループ4-1. アチックフィルム・写真にみるモノ・身体・表象

#### 研究グループ5-1. 第二次大戦中および占領期の民族学・文化人類学

2010年12月26日から29日にかけて、3班合同で台湾屏東県の山地を訪問し、昭和12年にアチックの宮本馨太郎と小川徹、および当時台湾で調査をおこなっていた鹿野忠雄の3人によって行われたパイワン族調査で撮影された16ミリフィルムおよび写真を上映し聞き書き調査をおこなった。



図17 屏東県泰武郷での調査の様子

## ②資料閲覧

### ◆2009年度

ソウル大学校 社会科学大学人類学科 (平成21年)

昭和11年7月～8月のアチック朝鮮多島海調査、およびアチック同人と東京帝国大学医学部学生らによる蔚山村達里における衛生調査時のアチック写真の閲覧をおこなう。

### ◆2010年度

秋田大学 大学院医学系研究科 (平成22年6月11日)

アチック同人の吉田三郎に関する資料の所在調査にあたり、アチック写真および関連文献の閲覧をおこなう。

蔚山大学校 歴史文化学科 (平成22年11月18日)

アチック同人と東京帝国大学医学部学生らによる蔚山村達里における衛生調査時のアチック写真の閲覧をおこなう。

青山学院大学 総合文化政策学部 (平成22年)

今和次郎に関する資料の所在調査にあたり、アチック写真および関連文献の閲覧をおこなう。

## ③資料掲載等

### ◆2009年度

『ホライゾン』(平成21年10月20日)

奄美情報誌『ホライゾン』第30号、高坂嘉孝「幻の喜界馬(喜界町獣医)」の項に「砂糖黍運搬に馬に乗って行く人」(目録番号 ア-8-2)が掲載される。

### ◆2010年度

『博物館学人物史』上(平成22年7月16日)

青木豊・矢島國雄編『博物館学人物史』上、落合知子「澁澤敬三」の項に「アチック・ミュージアムの屋根裏の様子」が(目録番号 写4-1-7-2・河1-6-6)が掲載される。

鹿児島県十島村立口之島小学校(平成22年10月27日)

鹿児島県十島村立口之島小学校創立80周年記念式典において、会場内に『アチック写真』vol.2を展示、また、記念冊子に「口之島の高倉」(目録番号 ア-10-25)が掲載される。

第14回常民文化研究講座「遠野から日本・アジア・世界へ」(平成22年11月6日)

岩手県遠野市で開催された日本常民文化研究所の第14回常民文化研究講座「遠野から日本・アジア・世界へ」において、「男鹿、能代、藤琴、石神、八戸」と「田中喜多美氏藁靴製作」の2本の16ミリフィルム、およびオシラサマや藁靴製作などのアチック写真が上映される。

『季刊地域』（平成22年12月13日）

農山漁村文化協会『季刊地域』4号、須藤功「宮本常一と観文研の若者たち」の項にアチック・ミュージアム外観の写真（目録番号 河1-6-5・13）が掲載される。

『常民文化』（平成23年1月20日）

成城大学常民文化研究会『常民文化』34号、荒一能「瀬戸内海漁村における女性の働き」の項にアチック写真「高見島」（目録番号 ア-100-18）が掲載される。

「縦横山林間—鹿野忠雄」ドキュメンタリー（平成23年3月30日）

台湾・国史館による映像ドキュメンタリー作品「縦横山林間—鹿野忠雄」およびそれに関する出版物の製作にあたって、昭和12年3月～4月に行われたアチックの宮本馨太郎・小川徹と鹿野のパイワン族調査に関する写真の閲覧・貸出をおこなった。

引用参考文献

- ・アチックミュージアム 1940 『瀬戸内海島嶼巡訪日記』アチックミュージアムノート第十七 アチックミュージアム
- ・磯貝勇 1937 「中部瀬戸内海及び崎島旅行経過」『アチックマンスリー No.24』 pp.97-99
- ・財団法人日本離島センター 2004 『日本の島ガイド SHIMADAS』日本離島センター pp.355-357
- ・澁澤敬三 1961 「第三部 旅譜と片影」『犬歩当棒録』角川書店 pp.339-589
- ・武田明 1973 「水上大学の頃」『日本常民生活資料叢書 月報7』三一書房
- ・中山正則編 1956 「柏葉拾遺写真解説」『柏葉拾遺』柏窓会

## (4) アチック写真粗目録

2011/05/29改訂

資料単位	資料番号 ①	資料番号 ②	資料名(内容)	写真 点数
			太字はアルバムの背表紙や封筒に記載された文字情報 (* )内はそれぞれの資料群より推定した内容)	
財団引継資料	アルバム	001	1 喜界島 I (岩倉市郎氏撮影) (*阿佐末吉神社のドンガンドー、観音様の社と洗濯場など)	39
財団引継資料	アルバム	002	2 喜界島 II (岩倉市郎氏撮影) (*正月の床飾り、盆の夜の夕涼みなど)	24
財団引継資料	アルバム	003	3 喜界島 (*材木運搬、蘇鉄の美干し、脱穀機による麦の脱穀、竹馬に乗る子供達など)	48
財団引継資料	アルバム	004	4 喜界島 (*葬式の行列、タマヤ、墓地、豚の皮剥ぎなど、焼いた山羊の腹を割くところなど)	17
財団引継資料	アルバム	005	5 喜界島 (*溜め池、薯植え、道普請、牛の品評会、正月の買物を馬に乗って行く人々など)	37
財団引継資料	アルバム	006	6 喜界島 7 (*阿佐の砂糖小屋、屋根葺、阿佐の岩倉宅、高倉、家建てハミダスを両方建て終わったところなど)	27
財団引継資料	アルバム	007	7 喜界島 鹿児島 沖永良部 (*奄美丸の甲板より開閉岳を望む、鹿児島県伊敷の民家、沖永良部島知名村のクダ屋、沖永良部島知名村の甘藷畑のシメなど)	25
財団引継資料	アルバム	008	8 喜界島 (*砂糖黍運搬に馬に乗って行く人、砂糖黍の圧搾機、田の水のシメ、苗取り、作業歌を歌いながらの麦打ちなど)	57
財団引継資料	アルバム	009	十島行写真 竹島硫黄島 (*十島丸より竹島を望む、硫黄島の硫黄島港と矢筈岳を後方に望む、硫黄島の太鼓踊り、口之島のアダン、)	103
財団引継資料	アルバム	010	十島行写真 口ノ島 中ノ島 (*口之島の刳船、口之島の耕地に植わる水芋、中之島のクバ、中之島の階段道と高倉、中之島の俵踊りなど)	105
財団引継資料	アルバム	011	(*諏訪の瀬島の山火事、平島の島居の上の大きなガジュマル、小宝島の海岸の珊瑚礁、小宝島の壱など)	86
財団引継資料	アルバム	012	十島行写真 宝島・大島名瀬住用村 (IV) (*宝島珊瑚礁上にて十島調査団集合写真、宝島の水井戸、奄美大島名瀬町の奄美本通り、奄美大島住用村城での蘇鉄の美干など)	83
財団引継資料	アルバム	013	十島行写真 大島大和村、口之永良部、鹿児島、櫻島 (V) (*奄美大島大和村大和浜遠景、奄美大島大和村大和浜の龍舌蘭の花、奄美大島大和村恩勝の高倉、口之永良部島の子守、鹿児島市内の桜島へ帰る物売りの女性など)	58
財団引継資料	アルバム	014	三宅島 探訪 (11)	19
財団引継資料	アルバム	015	新島・式根島 (藤本喜久磨氏撮影)	50
財団引継資料	アルバム	016	民俗繪葉書 (Ⅲ) 新島 式根島	27
財団引継資料	アルバム	017	欠番	0
財団引継資料	アルバム	018	脚本 越後 瀬戸内海 機具 高橋 吉田 (*村の産土神のトシドリ神のヒバ、新潟県北蒲原郡赤谷村瀧谷での熊の狩猟後の解剖、大晦日のミタマメシ、仙岩峠六枚沢の架橋先の登路途上で出会った炭焼きの男性の装束、鯛網漁、志摩半島の漁村、塩田の遠景、児島湾内のカシキ漁場の番小屋など)	84
財団引継資料	アルバム	019	探訪 (4) オキ エチゴ	52
財団引継資料	アルバム	020	探訪 (2) オキ	33
財団引継資料	アルバム	021	民俗繪葉書 (Ⅱ) ウルシ取 大原女	8
財団引継資料	アルバム	022	探訪 (1) 伊那 十津川 熊野 (*三信国境線新野峠より山々を望む、下伊那郡神原村坂部の石置き民家の屋根、吉野郡十津川村折立にて鹿革製の羽織と袴を着用した男性、南牟婁郡泊村古泊にて頭に薪を載せた女性など)	29
財団引継資料	アルバム	023	探訪 (15) (*琵琶湖周辺などカ)	34
財団引継資料	アルバム	024	探訪 (5) (*静岡県田方郡周辺など)	60
財団引継資料	アルバム	025	探訪 (7) 三河 (*奥三河段戸山の苗畑、奥三河段戸山樞尾集落にてショイタを着た女性、北設楽郡段峰村田峯観音の神楽堂、北設楽郡田口町の馬市にてセリを見る人々、岡崎市の大蔵永常旧宅と伝えられる家、岐阜県恵那郡三濃村下柏尾にて背負い子を持つ男子、愛知県北設楽郡本郷町中在家の花祭の湯離し)	49
財団引継資料	アルバム	026	探訪 (19) 三河 (*田口町長江の夏目義吉宅にて新盆行事見学の一行記念写真、奥三河河北設楽郡田口町長江の夏目義吉家、斜面に建つ家屋など)	23
財団引継資料	アルバム	027	花祭視察旅行 榎本文治氏 玉生道経氏撮影 (*花祭見学の一行、北設楽郡下津具村和市のヒゴヤ、花祭の鬼面、北設楽郡本郷町中在家の花祭の舞庭など)	21
財団引継資料	アルバム	028	志摩	19
財団引継資料	アルバム	029	塩に関する資料 新潟	1
財団引継資料	アルバム	030	探訪 (20) アワラの田植	48
財団引継資料	アルバム	031	片田家の小正月行事 染物家株札 警女所謂「特殊部落」の一部 ※1	7
財団引継資料	アルバム	032	越後 村上 福島潟	56
財団引継資料	アルバム	033	探訪 (18) (*越後三面、北設楽中在家、雫石など、アチックフィルム「男鹿オシラアソビ他」に写る漁村、大屋齋藤家ガイドコの開炉裏上部など)	37
財団引継資料	アルバム	034	上伊那 多島海 その他 ウケ (*上洛月島の浜辺、下洛月島の浜辺にあげられた船、越後三面川鮭漁場地域図、たくさんの釜を前に煙管で一服する男性など)	46
財団引継資料	アルバム	035	三面村民俗 (Ⅰ) 村上清文氏撮影	43
財団引継資料	アルバム	036	三面村民俗 (Ⅱ) 村上清文氏撮影	46
財団引継資料	アルバム	037	三面村民俗 (Ⅲ) 村上清文氏撮影	35
財団引継資料	アルバム	038	三面	20
財団引継資料	アルバム	039	探訪 (10) 高橋氏 三面 栗島 (*ゴム靴に帽子を被り荷を背負った男性二人、小国の街並みと羽織袴で歩く男性の老人、栃倉より三面への途中のブナ林の道、三面村の正月の鏡餅など)	51

資料単位	資料番号 ①	資料番号 ②	資料名(内容) 太字はアルバムの背表紙や封筒に記載された文字情報 (* )内はそれぞれの資料群より推定した内容	写真 点数
財団引継資料	アルバム	040	探訪(12) 越後	23
財団引継資料	アルバム	041	探訪(13) (*越後三面など)	45
財団引継資料	アルバム	042	探訪(17) 三面	24
財団引継資料	アルバム	043	民俗繪葉書(I) 三面川 能代 牛堀 (*大館、茨城農人形)	42
財団引継資料	アルバム	044	吉田三郎氏撮影 寒風山麓臨本村1	66
財団引継資料	アルバム	045	吉田三郎氏撮影 寒風山麓臨本村2	32
財団引継資料	アルバム	046	吉田三郎氏撮影 寒風山麓臨本村3	47
財団引継資料	アルバム	047	吉田三郎氏撮影 寒風山麓臨本村4	38
財団引継資料	アルバム	048	吉田三郎氏足半製作写真	20
財団引継資料	アルバム	049	探訪(8) 仙岩峠 高山 (*沢内村川舟佐藤家の囲炉裏と側で話す祖父と老妻、沢内村の駒形社の鳥居、橋場駅前で袋や背負い板で粟拾いの箱状のものを運ぶ人々、仙岩峠頂上から見た岩手山などの遠景、角館の家並みなど)	63
財団引継資料	アルバム	050	探訪(6) マタギ (*狩りの後の獲物分配の様子、ウマノツラを被り炭焼き運搬用の桶を背負う二人の女性、野辺送りの葬列、マタギの古老など)	38
財団引継資料	アルバム	051	(*アルバムのみ、写真なし)	0
財団引継資料	アルバム	052	探訪(3) 霞浦 栃木	27
財団引継資料	アルバム	053	アイヌ民俗 7	11
財団引継資料	アルバム	054	白老アイヌ写真集	21
財団引継資料	アルバム	055	朝鮮 (*竹箴のようなものでできた杓子や割られた洗い桶のようなもの、白いものが入った鉢、石臼、集落内の大きな木の前で写る人、板敷など)	7
財団引継資料	アルバム	056	探訪(14) 朝鮮 (*丸木で作られた桶状の入れ物、フネ、京城府昌徳宮庭園の東屋、竹垣とそれをのぞく調査者や地元の人々、犬、筵機で筵を織る人など)	27
財団引継資料	アルバム	057	探訪(16) 蔚山 (*細い道を行く二人の女性、敷地内小屋の裏の木、唐白など)	3
財団引継資料	アルバム	058	朝鮮 全羅南道多島海 (*口籠をつけた農耕用牛と男達、織機(pe-tul)、鎮里の風の神、チブセギとチゲなど)	11
財団引継資料	アルバム	059	朝鮮 蔚山邑達里(一) (*帽子を被り立つ男、歓迎の宴の様子、水甕を頭にのせる女性、頭にものを載せ運ぶ女性たちなど)	37
財団引継資料	アルバム	060	朝鮮 蔚山邑達里(二) (*バアチゲと杖、下草を刈る朴容文、調査本部であった洞舎前での調査員と子供たちなど)	37
財団引継資料	アルバム	061	朝鮮 蔚山・新亭里・兵榮・慶州 (*家屋と物干し、輿を先頭に進む人々、枝の束をチゲに乗せたまま下ろしている男性達、遠景から見た槽漕ぎの網舟2艘など)	35
財団引継資料	アルバム	062	朝鮮旅行写真(蔚山邑達里) (*朝鮮慶尚南道蔚山邑達里周辺のとある地図、チゲにスコップや1斗缶を乗せその横に立つ男、麦の篩分けなど)	16
財団引継資料	アルバム	063	探訪(9) 朝鮮・兵庫 (*木浦港に帰港する金剛丸、前曾島羽田里の遠景、鎮里の堂山木、風の神と洪沢敬三、16ミリカメラで撮影する洪沢敬三など)	23
財団引継資料	アルバム	064	多島海喜界島 (*大許沙島の玩具の舟、全羅南道扶南郡島附近のニベを捕る漁舟、上洛月里の働く女性、水島の祖霊を祀る壇、調査の合間の昼飯、家屋前での洪沢と3人の写真など)	71
財団引継資料	アルバム	065	朝鮮旅行写真(蔚山邑達里、慶州、多島海) (*バアチゲを背負う人とスコップを持つ人、縁側での記念撮影、仏国寺裏山より慶州附近を見るなど)	6
財団引継資料	アルバム	066	朝鮮旅行写真(多島海、平壤、京城)、四国旅行写真(佐多岬、宇和島) (*波市の料理屋の店先、波市の料理屋の店先、平壤市街、孝南里の家、朝鮮総督府の広間、佐多岬の北岸遠景など)	23
財団引継資料	アルバム	067	台湾 (*カピヤン社頭目、台南州佳里街の廟、台南州呉鳳廟前での田植の様子、台南市安平旧英国領事館跡と陳森塗、台南州三鯤鯓海岸に集まる漁夫と仲買人達など)	25
財団引継資料	アルバム	068	雑報 (*ナンバ(雪の上をはく下駄)、筏のウエ(熊野川成川にて)、フカグツ、下伊那郡神原村本山にてソデナシにナタカゴを揚げた炭焼きの男性達など)	15
財団引継資料	アルバム	069	高砂族 (*川漁の様子を撮影する鹿野忠雄、ヤスのようなものと竹製の釜のようなものをもつ現地の人、川に釜を設置する現地の様子など)	9
財団引継資料	アルバム	070	カピヤン (*カピヤンの集落と耕地、里芋(バサ)の植付、泉(タン)で洗い物や洗濯をするカピヤンの女性達、耕作地の斜面など)	32
財団引継資料	アルバム	071	台湾旅行 (*下パイワン社の集落遠景、下パイワン社の笠(リナイ)の製作、ピューマ社の女性の服装、頭上運搬をするピューマ社の女性など)	20
財団引継資料	アルバム	072	(クワルス) (*クワルス社の集落遠景、クワルス社の頭目の家屋の前の石板の前に座る人々、クワルス社にて狩りの支度をした男性達など)	51
財団引継資料	アルバム	073	ライ トラン 其他 (*ライ社より林辺溪を望む、ライ社の集落と家屋、キセルを啜えたライ社の男性、トランの家屋、トランの穀物が入られた盆状の民具と網代編みされたボシエツト状の容器など)	64
財団引継資料	アルバム	074	バクヒョウ マカザヤザヤ (*屋外で編み物をバクヒョウの女性、毛皮製の袖無を着るバクヒョウの男性、川岸の巨石の上で釣り竿を上げるバクヒョウの男の子と多くの釜の前に座るバクヒョウの女性、民族衣装を着たバイルス女性の手首や指の装飾、トコルと呼ばれる亀甲型雨具を被るマカザヤザヤの男の子、タバウにて鍋で煮炊きをする二人のタラバコンの女性など)	52
財団引継資料	アルバム	075	[ ] (*草山の山中からの遠景、草山の山裾の家屋、学甲庄の家屋と畑、大武山付近で群れをなす牛など)	42
財団引継資料	アルバム	076	資料 棒踊 農業園 (*新潟県中頸城郡の火祭り、農業図絵など)	11
財団引継資料	アルバム	077	資料(漁業) 霞ヶ浦 幌別 (*南島巡歴紀行、北海道幌別の漁夫、三河下津具柿平の農業に関する覚、江戸城周縁図など)	19

資料単位	資料番号 ①	資料番号 ②	資料名(内容) 太字はアルバムの背表紙や封筒に記載された文字情報 (* 内はそれぞれの資料群より推定した内容)	写真 点数
財団引 継資料	アルバム	078	記念写真 (* 味野町萩野正孝邸前での記念写真、福武丸と瀬戸内海島嶼調査団一行、奄美大島から鑑三男氏を迎えてなど)	31
財団引 継資料	アルバム	079	新島民具	22
財団引 継資料	アルバム	080	カラフト シーボルト	66
財団引 継資料	アルバム	081	小屋組模型 保谷出水	13
財団引 継資料	アルバム	082	足半	17
財団引 継資料	アルバム	083	資料(漁業) 九十九里 その他	22
財団引 継資料	アルバム	084	資料 南部 桧枝岐 (* 小正月の飾り物、ワラジにオソカゲを装着したもの、ワラグツ、畑脇に立つ祠のようなものと、そばに立つ市川信次、明神べい 桧枝岐など)	27
財団引 継資料	アルバム	085	資料 オコゼ ムツゴロウ	2
財団引 継資料	アルバム	086	□□ (* 木地屋 手廻しロクロ)	1
財団引 継資料	アルバム	087	日本青年館所蔵民具	13
財団引 継資料	アルバム	088	釜古図	13
財団引 継資料	アルバム	089	釜 (* Romok、ブヌン族使用のスゲージュ、魚入など)	87
財団引 継資料	アルバム	090	釜 (* コビル、カバサウ、ヒコオーなど)	48
財団引 継資料	アルバム	091	雑鞆 □□ その他 (* ユブリ、編み笠、塩田作業など)	12
財団引 継資料	アルバム	092	オシラサマ写真 (* 青森県八戸市のオシラサマ、岩手県雫石村のオシラサマ、岩手県附馬牛村のオシラサマなど)	59
財団引 継資料	アルバム	093	資料 テスリツム (* 幕末の絵巻より接写したテスリツムの場面、犬追物屏風絵より足半をはく人、小千谷ちぢみ絵巻より接写したテスリツムの場面など)	11
財団引 継資料	アルバム	094	石器時代漁具標本	40
財団引 継資料	アルバム	095	資料(漁業) 内浦	9
財団引 継資料	アルバム	096	資料(漁業) 捕鯨 南洋漁具	15
財団引 継資料	アルバム	097	資料(内浦古文書) (* バイルス社の高倉式穀倉と家屋、バイルス社の家屋の見取り図など)	47
財団引 継資料	アルバム	098	(* 内浦古文書、瀬浦古文書、片山家古文書など)	34
財団引 継資料	アルバム	099	斎藤家大(観) (* 斎藤善助家の入口、名子橋本孫蔵家、斎藤善助家ジョウイからトドコベヤやハシリマエをのぞむ、麦(穂)の種類七種など)	24
財団引 継資料	アルバム	100	和具 (* 味野の紡績工場と木造船、麦と除虫菊が栽培されている釜島の畑、志々島の港の集落と畑の区割、高見島遠景、和具の海女の作業風景など)	36
財団引 継資料	アルバム	101	岡山地田家所蔵品 (* 『池田家所蔵洛中洛外図屏風』接写魚屋・町屋、草鞋、草履など)	39
財団引 継資料	アルバム	102	古文書 内浦 枳尾又 (* 枳尾又入湯用心之覚など古文書)	26
財団引 継資料	アルバム	103	古文書 村松家 奥のしおり (* 村松家万作物覚帳のうち寛政十年度分の一部、村松家万作物覚帳のうち明治十年度分の一部など)	15
財団引 継資料	アルバム	104	神津島風俗風景写真	41
財団引 継資料	アルバム	105	八丈島<□□俗>風俗風景写真一 I	48
財団引 継資料	アルバム	106	八丈島風俗風景写真二 II	49
財団引 継資料	アルバム	107	八丈島風俗風景写真三 III	13
財団引 継資料	アルバム	108	神事芸能(□□□□□) 究資料の一	24
財団引 継資料	アルバム	109	神事芸能(民俗藝術研) 究資料の二 (* 豊橋安久美神戸神社の鬼祭の御玉引年占神事、豊橋安久美神戸神社の鬼祭の天狗の薙刀の舞、広島県宇佐郡安村の花田植の早乙女など)	24
財団引 継資料	アルバム	110	神事芸能(民俗藝術研) 究資料の三 (* 兵庫県淡路三條操人形秀衡館の舞台面、兵庫県淡路三條操人形の首など)	24
財団引 継資料	アルバム	111	壬生狂言(□□□□□) 究資料の四	24
財団引 継資料	アルバム	112	黒川能(民俗藝術) 研究資料の五	9
財団引 継資料	アルバム	113	玩具(旅と伝説)「玩具号」写真	25
財団引 継資料	アルバム	114	支那□□村風景	45
財団引 継資料	アルバム	115	(* 濹澤敬三肖像写真や保谷民族博物館など)	20
財団引 継資料	アルバム	116	(* 台湾阿里山噴起口汽車を待つ生藩族、草山、石黒忠篤と濹澤敬三、林本源氏邸など)	34
財団引 継資料	アルバム	117	(* 扶桑丸甲板や台湾総督官邸、長官と石黒忠篤、加藤氏経営家鴨卵人工孵化場、永楽町市場、台北橋など)	40
財団引 継資料	アルバム	118	(* 台湾総督官邸、長官と石黒忠篤、台湾阿里山噴起口汽車を待つ生藩族、加藤氏経営家鴨卵人工孵化場、永楽町市場、台北橋、豊年踊りなど)	50
財団引 継資料	アルバム	119	(* 西表・石垣島遠景、豚小屋、入れ墨、糸満船、カイザーウィルヘルム一世感謝碑など)	31
財団引 継資料	アルバム	120	昭和十一年八月朝鮮達里写真集 (* 牛をつけたTolban、朴氏宅で製作中のT a k s i g i、麦初め乾燥、前曾島の製塩所、前曾島の人々とChon-janamuの本など)	55

資料単位	資料番号 ①	資料番号 ②	資料名(内容) 太字はアルバムの背表紙や封筒に記載された文字情報 (*内はそれぞれの資料群より推定した内容)	写真 点数
財団引 継資料	アルバム	121	欠番	0
財団引 継資料	アルバム	122	宇部硫安 (*宇部窒素工業前社長故渡邊祐策肖像写真、宇部窒素工業本社設立地鎮祭など)	24
財団引 継資料	写真類	1001	最上紅花 (*山形県七日町初市の花鮎、紅花を摘む女性、中村嘉兵衛氏所蔵「東講商人鑑」など)	73
財団引 継資料	写真類	1002	紡績農家飲食燈火 (*糸車・箆等織物用具、牛首・蚕籠等養蚕用具、釜・徳利等飲食用具など)	5
財団引 継資料	写真類	1003	根子部落、マタギ集 (*秋田県仙北郡上檜木内村字堀内のオイス社、マタギ姿の鈴木甚之助と赤上政治郎、スケートを履いた荒瀬村根子の子ども達など)	22
財団引 継資料	写真類	1004	(*竹製製釜、ガラス製横釜、釜引き上げ具など)	20
財団引 継資料	写真類	1005	真澄遊覧記 (*機織具、漁具・網図、アイスマ家図など)	25
財団引 継資料	写真類	1006	朝鮮多島海 (*鎮里のパチゲと杖、大許沙島のチヨクセミとチュングを着た女子、全羅南道扶南群島附近のニベを捕る漁舟、共同作業場で麦打ちを終えた荏子島の人々など)	49
財団引 継資料	写真類	1007	堺市民家 (*酒屋「金露」、木綿問屋、醤油・味噌屋、魚問屋など)	71
財団引 継資料	写真類	1008	山口県佐合島佐川家文書自己筆写合と対照 (*山口県佐合島佐川家文書の筆稿本や筆者原稿など)	0
財団引 継資料	写真類	1009	昭和11年8月朝鮮達里写真集 (*洗濯後ノ乾燥、トラコーマ治療、水田の除草、パチゲを背負う少年、姜氏とその家族、衛生調査員のポートレートなど)	78
財団引 継資料	写真類	1010	朝鮮多島海集 (*喜界島のアヨー、上落月島の蝦船と豚、大許砂島の蛸を入れて生かして置く竹製の籠・ソンドイ、荏子島の波市の料理店、筵機を使った筵織など)	25
財団引 継資料	写真類	1011	瞬間 高橋文太郎作 (*越後赤谷村瀧谷の熊の皮張、路侠を履いて雪を踏み固める吉田三郎、南牟婁郡泊村古泊にて頭に薪を載せた女性など)	15
財団引 継資料	写真類	1012	三面集 村上其の他 (*小国村伊佐領にてニシヨヒミノを用いて材木板を背負う女性、天秤棒で魚を売るボテカツギ(行商人)と会話する高橋文太郎と早川孝太郎、こまがた飾りなど)	26
財団引 継資料	写真類	1013	雑集 (*オーアシ(田下駄)で代こしらえをする男性、雲水の旅装を着けた高嶺道隆君、オンドヤキヤ厄落し行事に用いるセイマルボウ、ハシナガチョウザメ、雲水の旅装を着けた高嶺道隆君など)	27
財団引 継資料	写真類	1014	瞬間の累積 岩倉市郎作 喜界島 附桜島etc (*六月燈の神楽、六月燈の子供料理、製糖所、オーバリなど)	107
財団引 継資料	写真類	1015	岩倉作 新潟見附 稲作其の他 (*米山薬師如来塔、藁にゅうや雁木のある横丁、立木はげなど)	19
財団引 継資料	写真類	1016	(*航空機クラブ上の澁澤敬三、日本常民生活絵引原図の「ちはや」の模写図、レストラン「PRUNIER」のパンフレット、ヘラルド誌1956年11月4日付けの記事「An Old Mushroom With a Kick」など)	8
財団引 継資料	写真類	1017 001	(*木の枝に登る猿、浜でムギを拾う猿、幸島の岩場の猿など)	7
財団引 継資料	写真類	1017 002	門松写真、平凡社ヨリ (*満州奥地の深林地帯の正月飾り、門に桃符をはり掛箋をかけた門松、プータンの門松、ヤミ族が描いた魚「Vivian」など)	14
財団引 継資料	写真類	1017 003	東京都港区芝三田綱町 渋沢敬三様 大阪府堺市大仙町 大阪府立大学農学部 中尾佐助 (*ティンブラ王宮にて首相以下客人のためにたてた臨時テント村のカドマツやジグミー・ドルチ氏の一行をむかえるため臨時に植えたカシの木の間にツナを張りカザリの小旗がつけてある様子など)	5
財団引 継資料	写真類	1017 004	港区三田綱町一〇 速達 渋澤敬三先生 即日速達 消印 写真在中 (*アイスの高倉、熊飼育舎、保谷野外博物館の様子など)	3
財団引 継資料	写真類	1017 005	港区芝三田綱町一〇 日本常民文化研究所内 宮本常一様 写真在中 消印 (*早川孝太郎とその妻智恵、そのほかの人々との集合写真など)	1
財団引 継資料	写真類	1017 006	Culture & photography Cameras & Photo Supplies FUTAMISHOKAI 4th.ST. GINZA (*「和調諸職絵巻」地唐紙屋、「今様職人展」御しろいや、「西鶴つれづれ」往來の賑わい、桐油合羽や縮緬紋、紙子や売店、キセル屋の看板など)	101
財団引 継資料	写真類	1017 007	瞬間の累積 計画 (*人物彫像など)	6
財団引 継資料	写真類	1017 008	瞬間の累積 計画 (*澁澤敬三が写るイギリスの街並みや談笑する澁澤敬三、ポートレートなど)	18
財団引 継資料	写真類	1017 009	瞬間の累積 計画 (*水屋の様子や酒屋の看板、下駄など)	14
財団引 継資料	写真類	1017 010	瞬間の累積 計画 (*ヤミ族が描いた魚「Oiyun」、ヤミ族が描いた魚「Magarat」など)	7
財団引 継資料	写真類	1017 011	瞬間の累積 計画 (*時国家広間や第一銀行パンフレット表紙写真など)	21
財団引 継資料	写真類	1017 012	瞬間の累積計画、封筒 東京都教育委員会	0
財団引 継資料	写真類	1018 001	伊豆内浦 (*大川四郎左衛門、長屋門、古文書など)	9
財団引 継資料	写真類	1018 002	東北所見「一六ミリ」ヨリ (*青森八戸・岩手種市塩釜跡附近鳥居、稲ハザ掛け、アラメ・カジメの切干、藤琴の駒踊り、おしらさま遊びなど)	38
財団引 継資料	写真類	1018 003	東北風物 (*津軽深澤の地藏堂、縄を担ぎ衰と頬冠りをした女性三人、竜飛岬、菅江真澄翁の墓シッコサマなど)	13
財団引 継資料	写真類	1018 004	ムツゴロウ 東京市麹町区丸ノ内一ノ一 第一銀行本店 八十島親義様 (*ムツゴロウなど)	2
財団引 継資料	写真類	1018 005	捕魚捕鳥(中尊寺) (*中尊寺蔵と思われる「捕魚捕鳥」図など)	2
財団引 継資料	写真類	1018 006	帆船七里 越後フィルム、越後探訪旅行「フィルム」楳西氏撮影、楳西様 十一月十五日～二十三日 村上 新潟地方 (*罾や桶、網、鮭漁の様子、地引網漁を見る渋沢敬三など)	59
財団引 継資料	写真類	1018 007	笹森儀助 星里稲刈帳 (*大福帳や家屋、屋根裏の様子など)	19
財団引 継資料	写真類	1018 008	シュミットノサイン 明治ノガス燈 (*ガス燈の下での勉強会やシュミットのサインなど)	3
財団引 継資料	写真類	1018 009	奈良家 (*秋田県金足村の奈良家の母家、秋田県金足村の奈良家の古式の鍵、秋田県金足村の奈良家の安永十年の「私用日記」など)	5
財団引 継資料	写真類	1018 010	テスリツム (*手ツム)	1

資料単位	資料番号①	資料番号②	資料名(内容)	写真点数
			太字はアルバムの背表紙や封筒に記載された文字情報 (*内はそれぞれの資料群より推定した内容)	
財団引継資料	写真類1	018 011	角突き (*二十村の牛の玩具の絵【春日部たすく君画】、南総里見八犬伝中「小文吾暴れ牛と駄む」挿絵など)	4
財団引継資料	写真類1	018 012	斎藤家 (*裨室の内部、大屋斎藤家成員および雇人、大屋斎藤家ダイドコなど)	5
財団引継資料	写真類1	018 013	古文書 (*九十九里絵図や古文書など)	11
財団引継資料	写真類1	018 014	水族館 (*イルカやイルカのショー、水族館俯瞰写真、昭和31年・昭和34年ICC総会でのロス マリーンランドでの絵葉書カ、『祭魚洞襦考』写真図版21.22に使った版下カなど)	12
財団引継資料	写真類1	018 015	公私用日記 ばばさまのおはなし (*深靴の絵ハガキやけんつくの絵葉書、すかりの絵葉書、消防用手押しポンプなど)	15
財団引継資料	写真類1	018 016	浅沢郷土史 資料 五十沢様御承知 浅沢郷土誌 (*『浅沢郷土史料』、筆者原稿カなど)	2
財団引継資料	写真類1	018 017	東北犬歩当棒録 (*おしやく島のサイの河原や流れ昆布採集具、アラメ・カジメの切干、花鮎、おしらすま遊びなど)	35
財団引継資料	写真類1	018 018	当棒録の人々 (*進藤竹次郎肖像写真、石川理紀之助肖像写真、近藤竹治郎肖像写真、内田武志肖像写真など)	16
財団引継資料	写真類1	018 019	台湾文化史より クジライハイ アニマタギ 最上徳内代官記 (*クジライハイ、荒瀬村根子のマタギの狩猟用具、最上徳内肖像画、最上徳内代官記、鱒珠など)	12
財団引継資料	写真類1	018 020	昭和廿九年十二月七日東北犬歩当棒録への写真原稿二重の分及不要の分 (*佐久間孫太夫の位牌など)	2
財団引継資料	写真類1	018 021	考古漁具 (*銚先、アバ、土器に残る網の目など)	41
財団引継資料	写真類1	018 022	台湾 (*『Pagain-so-aribanban』と呼ばれるヤミ族の飛魚煮炊き用の壺 (Pagain-so-aribanban or boiling-pot for flying-fish)、『Puraranum』と呼ばれるヤミ族の水壺 (water-pot)、『Tawal』と呼ばれるヤミ族の仕掛網 (drag-net) など)	40
財団引継資料	写真類1	018 023	東京俚俗集覧 第一輯 (*鼠小僧の墓、久米平内堂、駒込大黒堂など)	13
財団引継資料	写真類1	018 024	封筒	0
財団引継資料	写真類1	019 001	北野天神19枚在中 (*北野天神絵巻の一カットなど)	19
財団引継資料	写真類1	019 002	市川様 (*シュミット博士を迎えた際の集合写真、敬三とシュミット博士の写真、島崎藤村歌碑など)	4
財団引継資料	写真類1	019 003	社長 (*35.5.10の日付、契約を交わしているような写真など)	2
財団引継資料	写真類1	019 004	石山寺43枚 石山寺 43枚 在中 (*石山寺縁起絵巻の一カットなど)	43
財団引継資料	写真類1	019 005	(*敬三のポートレート、書籍中に掲載されているアステカの太陽神の石像の写真、澁澤敬三葬儀時集合写真、葬儀時の敬三の死に顔など)	8
財団引継資料	写真類1	019 006	絵引きの写真 (*写真類1-19の内容が入っていた封筒)	0
財団引継資料	写真類1	020	予備 (*『日本広告史小考』に使われた挿絵版下など)	11
財団引継資料	写真類1	021	東京シネマ岡田様 一枚ヅツ焼付分一四組 四枚 三枚ヅツ十九組 五七枚 計二十三組 六十一枚 昭和廿九年十二月七日 東北犬歩当棒録 資料ニノ口 (*薩南十島調査時集合写真、網町邸など)	7
財団引継資料	写真類1	022	足半レントゲン写真 足半 (*足半レントゲン写真など)	17
財団引継資料	写真類1	023	(*鯖長縄釣の図、鯖釣夜漁の図、鰻魚千本釣の図、水産博覧会一区一類出品審査報告 烏賊釣など)	105
財団引継資料	写真類2	001 001	(*戦災より復興した具志堅・玉城・名護小学校の写真など) ※2	3
財団引継資料	写真類2	001 002	十五分席画 二冊 (*公暁撃實朝の図や静御前法楽之舞、敬三自筆絵など)	0
財団引継資料	写真類2	001 003	(*料亭にて澁澤を囲む集合写真など)	2
財団引継資料	写真類2	001 004	(*萩原碌山彫刻写真など)	2
財団引継資料	写真類2	001 005	智雄 渡辺隆男 桐寮etc ネガ6枚 (*智雄、渡辺隆男に相当する人のポートレートなど)	6
財団引継資料	写真類2	001 006	富浦水泳部 (*大正3年ごろより始まる、静浦に行く途中の富浦での水泳仲間など)	16
財団引継資料	写真類2	001 007	昭和十二年七月三十一日～八月七日 尾瀬～日光へ フィルム在中 (*山並みや草原、ハイキング時の集合写真など、「日光 男体山 戦場ヶ原」や「湯ノ湖 龍頭の瀧 中禅寺湖」といったネガ袋に小分けにされている)	77
財団引継資料	写真類2	001 008	(*グラバー邸俯瞰写真や邸内など)	2
財団引継資料	写真類2	001 009	(*水路あるいは港で積み荷を上げ下ろす作業の様子など)	1
財団引継資料	写真類2	001 010	(*澁澤敬三著作集 第3巻 p.526「ワル女子」と同一のもの版下カ)	1
財団引継資料	写真類2	001 011	(*内山峽青淵の詩の石碑の前での集合写真など)	1
財団引継資料	写真類2	001 012	「中の家家法」、「中の家臨時会議決議録」	0
財団引継資料	写真類2	001 013	澁澤敬三宛 岩波茂雄出 (*書簡「岩波茂雄より澁澤敬三へメロンの礼状」)	0
財団引継資料	写真類2	001 014	(*航空写真)	1
財団引継資料	写真類2	002 001	(*芸者の写真や建物等写真など)	13
財団引継資料	写真類2	002 002	(*牛馬を使った農耕作業、田植、稲刈り、はさ、農村、農具、屋根葺きなど)	88
財団引継資料	写真類2	002 003	重複写 欠写 十二枚 (*『三重県漁業図解 壺』より絵図接写、「鰻漁の図」、「バイ捕獲の図」など)	36
財団引継資料	写真類2	003	シーボルト 複 (*『長崎表二而 シーボルトより取上ケ候東韃紀行より書抜候画六拾五枚』の接写写真、南カラフトのそりや南カラフト鍛冶し師の図など)	66

資料単位	資料番号 ①	資料番号 ②	資料名(内容)	写真点数
			太字はアルバムの背表紙や封筒に記載された文字情報 (* 内はそれぞれの資料群より推定した内容)	
財団引継資料	写真類2	004	呼売 鳴物によるもの、声によるもの、行事 年中行事に現れる(年の市、ほうずき市、節句人形の市) 市場 魚市場、青物市場、世田ヶ谷のボロ市の如き、老舗 日本橋<□□>辺に残る、東京地震災に残る方面の商売 露店 <□□>緑日、夜店など 大阪 一船場 京都 浅草 一銭蒸汽一隅田川、コレノ四切八十五、五月十一日付先生銀行へ持参。アチツクニナシ (* 『日本広告史小考』より、「らうや」浜谷浩撮影、「館や」浜谷浩撮影、前掛け屋看板など)	17
財団引継資料	写真類2	005	写真控張 MEMO (* 草、刃物のスケッチなど)	1
財団引継資料	写真類2	006	空封筒 (* 空封筒 「三面漁場地域之図(複)」、空封筒 採集旅行vol.4、空封筒No2越後、空封筒 朝鮮昭8.12澁澤敬三撮影、空封筒 村上清分三面、空封筒 乗鞍2袋など)	39
財団引継資料	写真類2	007	洗濯様 「台湾」 大正十五年□ 二枚宛焼増 厚板 九枚アリ 合計十八枚也 出来上りは五月三十一日 (* 基隆港に停泊する帝國海軍艦船カ、水辺の淵の筆筒樹(蛇木)の前に座する石黒忠篤(民政長官官邸カ)など)	6
財団引継資料	写真類2	008	台湾八枚 (* 手鋸、ヘラ(沖縄・奄美のフィラに似た小農具)、「Yara」と呼ばれる農業で使う籠の底部、「Sasaragan」と呼ばれるヤミ族のかせをつくる台(warping-bench with grids)など)	8
財団引継資料	写真類2	009	北野天神(欠) 石山寺(欠)、北野天神 欠アルモノ (* 北野天神絵巻の1カット、石山寺縁起絵巻の1カットなど)	14
財団引継資料	写真類2	010	手紙4枚/カビネ4枚 特別バンクに使用 絵巻物の中の仮面 宇野様より 絵巻物ノ仮面 (* 絵巻物に出てくる仮面のクローズアップ、絵巻物に出てくる方相氏など)	12
財団引継資料	写真類2	011	(* 小屋の軒下の綱、縄など)	2
財団引継資料	写真類2	012	(* フィリピンソン島のバナエ工棚田【絵ハガキ、白紙の名刺大カードなど】)	1
財団引継資料	写真類2	013	昭和七年夏 於逗子其他 フィルム在中 (* 昭和7年夏の逗子にての家族写真など)	33
財団引継資料	写真類2	014	(* 山を向いて背を向けて移る4人、登山での家族写真カ【ネガフィルム1枚、雅英・登喜子・アチック同人が写ったものあり】)	1
財団引継資料	写真類2	015	(* 登山での記念写真、山の風景など、登山での写真カ【雅英・アチック同人が写ったものあり】)	4
財団引継資料	写真類2	016	(* 登山での記念写真、山の風景、白樺の木など、登山での家族写真カ【雅英・登喜子・アチック同人が写ったものあり】)	12
財団引継資料	写真類2	017	(* 登山での記念写真、山の風景など、登山での家族写真カ【雅英・登喜子・アチック同人が写ったものあり】)	8
財団引継資料	写真類2	018	(* 登山での記念写真、山の風景など、登山での家族写真カ【雅英・アチック同人が写ったものあり】)	7
財団引継資料	写真類2	019	(* スキーでの記念写真カ【アチック同人が写ったものあり】)	2
財団引継資料	写真類2	020	(* スキーでの記念写真、スキーでの家族写真カ【雅英・登喜子・アチック同人が写ったものあり】)	3
財団引継資料	写真類2	021	ウナギ、ハモ、アナゴ、ウツボ、ウミヘビ 四巻(廿六類) (* 朝鮮ウミヘビ、ウナギ、ゴテンアナゴなど魚の絵)	26
財団引継資料	写真類2	022	廿参巻 (* ホウボウ、カナド、カナガシラなど魚の絵)	20
財団引継資料	写真類2	023	拾五巻 (* タカノハダイ、シラキス、キサコリなど魚の絵)	7
財団引継資料	写真類2	024	廿四巻 カレイ、シタベラ、クツブコ (* ガンゾウヒラメ、タカカレイ、サメカレイなど魚の絵)	25
財団引継資料	写真類2	025	ヤカラ/ウミテング/ヨウジ/フウライ 五巻(十九類) (* アカヤガラ、アオヤガラ、ヤウジウヲなど魚の絵、グラバー図譜の接写カ)	18
財団引継資料	写真類2	026	タツ、サヨリ、サンマ、トビウヲ、ボラ、カマス、コノシロ、イットウダイ、ヒメジ 七巻(廿六類) (* アオサギ、ダツ、チユウゾウなど魚の絵)	26
財団引継資料	写真類2	027	コノシロ/イワシ/シラウヲ/エツ/アユ/オキトショウ 六巻(二十四類) (* コノシロ、ウルメイワシ、マイワシなど魚の絵)	24
財団引継資料	写真類2	028	御写真 PHOTOGRAPHY (* 写真館のような場所で撮られた男女二人の写真【ガラス乾板】)	1
財団引継資料	写真類2	029	(* カネタタキ、カガミタイ、ヒンダイなど魚の絵)	544
財団引継資料	写真類3	001	焼増1枚 市川様 (* 人形を持つ人形使い)	1
財団引継資料	写真類3	002	(* 幼少の渋沢雅英、第一銀行名古屋支店建設現場、敬三らの集合写真など)	9
財団引継資料	写真類3	003	朝鮮 昭 8.12 洗濯先生撮影 (* 軒先にある割られた丸太のようなもの、納屋のようなもの前に立つ男と犬、調査団のような人と地元の人々と犬など)	5
財団引継資料	写真類3	004	十島 (* 平島の水田、小宝島の墓地、中之島港付近の集落と丸木舟など)	9
財団引継資料	写真類3	005	(* 海から望む島の岸壁、網【隠岐】、船を洗う様子など)	17
財団引継資料	写真類3	006	四月廿二日受附 櫻田様 十五枚 (* 台南州呉鳳廟前での田植の様子、台北市教育会館前の牛に曳かれる荷車、鯉・に向う升筏、三分校入り口で冬支度をする人など)	22
財団引継資料	写真類3	007	秋田県南秋田郡脇本村大倉附近 写真原板 お返しの方 (* 寒風山と白田伐採の薪、薬束を載せる馬と少年、ムシロオリなど、吉田三郎氏撮影の秋田県南秋田郡脇本村写真)	11
財団引継資料	写真類3	008	村上清文 三面(a) (* ムラ芝居の後の様子、雪中での伐採の様子、モチバナを木に付けている様子など、村上清文撮影三面撮影写真)	59
財団引継資料	写真類3	009	村上清文 村上町にて 不要分 (* 直江津の山車、村上新聞社主催の新潟県下傷兵大会での会場外観など)	9
財団引継資料	写真類3	010	岩倉. キカイ. 去府中2し (* 組合旗を持つ人と海女達の集合写真、和具村絵図、地引き網に使うロクロの前の老人、竹内久三郎船の絵など)	23
財団引継資料	写真類3	011	藤木君分 (* 新潟本村新町のカラウス、新島本村浜にての荷積み、網納屋と網など)	22
財団引継資料	写真類3	012	吉田三郎 練習分 (* とある部屋に座る市川信次、網街邸など、吉田三郎が写真撮影練習用として写した網町邸近郊の風景など)	12
財団引継資料	写真類3	013	芋川か (* 新潟県芋川の畑に立つ女性と少女、当地の人々と写る澁澤敬三など)	8
財団引継資料	写真類3	014	(* 高知県県戸市クヅラ位牌)	1
財団引継資料	写真類3	015	村上町 村上清文作 (* 村上大祭のおしゃぎり、御輿)	2
財団引継資料	写真類3	016	白萩村 アワラ (* 富山県中新川郡上市町白萩アワラの女性達、富山県中新川郡上市町白萩アワラの田植の様子、水田の様子など)	8

資料単位	資料番号 ①	資料番号 ②	資料名(内容)	写真点数
			太字はアルバムの背表紙や封筒に記載された文字情報 (*内はそれぞれの資料群より推定した内容)	
財団引継資料	写真類3	017	台湾 安平 不要分 小松君 (*台南州北門庄五王廟前での集合写真、台南州佳里街の廟、台南州新巷庄媽祖廟祭の町並み、袋網先の浮き樽、村上大祭のおしゃぎりなど)	13
財団引継資料	写真類3	018	(アチック 岩合村) (*モチバナ【三面カ】、刳り船を作る大工など)	10
財団引継資料	写真類3	019	(三面川流域中【 1】) (*「三面川鮭漁場区域之図」絵図)	1
財団引継資料	写真類3	020	(朝鮮 昭 8. 12 洪澤先生撮影) (*朝鮮温陽郊外初すり白、朝鮮温陽郊外木製の鳥を竿先に掲げている竿、朝鮮温陽郊外天下將軍など)	5
財団引継資料	写真類3	021	(伊豆新島 藤木A) (*新島水桶やコーガ石の塀と民家、道路と竹垣など)	56
財団引継資料	写真類3	022	(奄美B) (*奄美大島の高倉、タキキを運ぶ男性、水面に浮かぶ木造船と山の斜面の畑など)	5
財団引継資料	写真類3	023	(台湾C) (*浜に集まる漁夫と仲買人達、台湾のとある漁村の網干場、夜漁に使う燈斗、三鯤鯓の浜の筏など)	11
財団引継資料	写真類3	024	(多島海D) (*上洛月島の浜辺、朝鮮総督府(京福宮慶会楼)を背に記念撮影、上洛月島の蝦網船、木浦沖金剛丸上にて集合写真など)	10
財団引継資料	写真類3	025	(*茶葉を摘む女性、社殿を見学する調査の人々、ティータイムでお茶を飲む人々など)	27
財団引継資料	写真類3	026	ビワ湖 栗見新田 etc (*家屋前の田植え女達、富山県中新川郡市町白萩アワラの田植の様子、水田の様子など)	12
財団引継資料	写真類3	027	採集旅行 vol.4 No2 越後 (*アルバム「探訪No.2と4」に関わる越後三面や隠岐の写真が入っていたものか、詳細不明)	7
財団引継資料	写真類3	028	オキ、糸満2 (*隠岐、糸満の漁の様子など)	7
財団引継資料	写真類3	029	(ハンザ) (*海から望む島の岸壁や網【隠岐】、社、積まれたサザエの殻など)	14
財団引継資料	写真類3	030	(村上清文 三面a b) (*三面の正月行事の様子、御輿を担ぐ人々、小正月の餅花、刳り船を運ぶ様子など)	66
財団引継資料	写真類3	031	(村上清文 三面(e)) (*間戸裏端の家族、松飾りを飾る様子、モチバナなど)	44
財団引継資料	写真類3	032	大菩薩峠 奥塩原 神津牧場 赤倉 駒ヶ岳 (*草原で寝ころぶ敬三と登喜子・雅英、山の祠の前に座る雅英達、山の風景など)	19
財団引継資料	写真類3	033	(九年夏 上高地にて) (*登喜子・雅英達集合写真、山を眺める雅英達、山の風景など)	7
財団引継資料	写真類3	034	乗鞍岳にて (*山の風景など)	5
財団引継資料	写真類3	035	昭和九年 九月 ハツ嶽にて (*山から見下ろす湖の様子、木立の中で倒木に座る雅英達、山の風景など)	7
財団引継資料	写真類3	036	昭和十年 七月 赤倉 妙高山 親不知 (*山の斜面に座る登喜子・雅英・市川信次達、草木を眺める雅英・紀子達など)	24
財団引継資料	写真類3	037	昭和九年 八月 日光にて (*ベンチに座る紀子達や車の横に立つ登喜子・雅英・紀子達、倒木に座る敬三・雅英・紀子など)	13
財団引継資料	写真類3	038	昭和十一年九月 乗鞍行フィルム (*山頂に立つ登喜子・雅英達や湖を眺める登喜子・雅英達、山の風景など)	7
財団引継資料	写真類3	039	五湖めぐり 昭和九年十一月 (*湖と山や草原に座る雅英達など)	4
財団引継資料	写真類3	040	九年夏 上高地にて 蓼科 (*草原に座り談話する敬三・雅英達)	1
財団引継資料	写真類3	041	(台湾) (*屋根の無い建物【台湾】や牛を使った代掻き、船上の宮本馨太郎と小川徹、ムラの様子、焼畑の様子など)	95
財団引継資料	写真類3	042	(吉田三郎氏撮影) (*藁束やハサ掛け、馬を使った代掻き、田植え杵を使っているところなど)	97
財団引継資料	写真類3	043	(*七庚申と石宮や注連縄を巻いた石臼、餅を載せた鍋、餅を薬で結んだ鯨、注連飾り、縄をなった束を前に写る職人達など)	45
財団引継資料	写真類3	044	(*「【表面】昭和九年十一月 五湖めぐり【裏面】十月 箱根 神山 駒ヶ岳」と書かれた「金城商会」の原板保存袋)	0
財団引継資料	写真類3	045	(*「【表面】蓼科にて【裏面】十一月三四日 五湖めぐり」と書かれた「金城商会」の原板保存袋)	0
財団引継資料	写真類3	046	(*【表面】6【月】□□【日】瀧澤【様】【裏面】【Size】手札【現像】【ロール】7【本】【焼付】【各】1 31【枚】【仕上】6【月】14【日】と書かれた「新宮館」の封筒)	0
財団引継資料	写真類4	001	001 (*正徳年間の真鍋島絵図、真鍋増太郎家文書写真、鼠絵図など)	7
財団引継資料	写真類4	001	002 (*祭礼にあたっての「御祓い」「祝詞」の写真カ など)	5
財団引継資料	写真類4	001	003 (*豆州内浦湾内風景カなど)	3
財団引継資料	写真類4	001	004 (*アチック同人によるスナップ写真、赤子の写真など)	5
財団引継資料	写真類4	001	005 (*アチック同人による三田網町邸内における記念写真やスナップ写真など)	6
財団引継資料	写真類4	001	006 (*「頬被りをする母子」「稲架の前で子守をする子供」「石臼小屋」など)	3
財団引継資料	写真類4	001	007 (*アチック・ミュージアムの屋根裏郷土玩具展示写真、昭和2年ゴールドン・ボールス、フレデリック・スタール来館時の集合写真など)	3
財団引継資料	写真類4	002	001 (*アチック・ミュージアム彙報第十「復刻 木方秘伝書」口絵写真など)	3
財団引継資料	写真類4	002	002 (*アチック・ミュージアムノート第1「民具問答集第一輯」掲載写真「ニンギョウ」「テル」「イタヤカツコベ」「カンジキ」など)	19
財団引継資料	写真類4	002	003 (*洪沢敬三料亭写真、敬三二男紀美戒名など)	4
財団引継資料	写真類4	002	004 (*草履・草鞋・下駄写真、岡山県池田家所蔵洛中浴衣図屏風写真など)	13
財団引継資料	写真類4	002	005 (*アチック・ミュージアムノート第1「民具問答集第一輯」掲載写真「イタブクリ」、アチック・ミュージアム彙報第35「土佐室戸浮津組捕鯨実録」口絵写真「酒宴の酒杯」、「日本社会民俗辞典」第1巻掲載写真「二百十日の厄除人形」など)	10
財団引継資料	写真類4	002	006 (*アチック・ミュージアムノート第1「民具問答集第一輯」掲載写真「コシゴとニカラ」、「クツ」、「アグドスベ」、「クサトリメカイとカマ」、「ボウチボー」、「山ノ神」、「フミダラ」、「十二日禮ノ餅包」など)	18
財団引継資料	写真類4	002	007 (*アチック・ミュージアムノート第1「民具問答集第一輯」掲載写真「コシビリ」など)	21

資料単位	資料番号①	資料番号②	資料名(内容)	写真点数
			太字はアルバムの背表紙や封筒に記載された文字情報 (* 内はそれぞれの資料群より推定した内容)	
財団引継資料	写真類4	002	008 (*アチック・ミュージアムノート第1『民具問答集第一輯』掲載写真「ヒメツコとバカ」、「ツイタテ」、「シヨタゴ」、「田ノ神」、「日本社会民俗辞典」第3巻掲載写真「豆コキパン(福岡糟屋郡地方)などアチック・ミュージアム彙報第10『復刻 木実方秘伝書』口絵「第一図 木実方秘伝書 五巻」など)	23
財団引継資料	写真類4	002	009 (*アチック・ミュージアムノート第1『民具問答集第一輯』掲載写真「ウケとコズ」、「イトヒキワク」、「テゴ」、「シヨイカゴ」、アチック・ミュージアム彙報6『所謂足半(あしなか)に就いて』掲載写真「抱猪神送りの足半」など)	17
財団引継資料	写真類4	002	010 (*アチック・ミュージアム彙報第10『復刻 木実方秘伝書』口絵「第四図 土手櫃の一例」、日本社会民俗辞典第3巻掲載写真「門道心(木偶)」、アチック・ミュージアムノート第1『民具問答集第一輯』掲載写真「タスキ」など)	21
財団引継資料	写真類4	002	011 (*アチック・ミュージアムノート第1『民具問答集第一輯』掲載写真「燈台」、「キハダの下駄」、「ツチンポー」、日本社会民俗辞典第2巻掲載写真「ネコダ(岐阜県高山市)など)	21
財団引継資料	写真類4	002	012 (*アチック・ミュージアム彙報第19『北海道幌別漁村生活誌』口絵写真、本橋巳太郎氏寄贈の台湾原住民使用のウケ写真など)	12
財団引継資料	写真類4	002	013 (*アチック・ミュージアム彙報第7『上伊那川島村郷土誌続編』挿絵写真など)	24
財団引継資料	写真類4	002	014 (*「昭和十三年四月十七日撮影 ○大里 葛飾区新宿町 梅沢平次郎氏」ウケ製作写真カなど)	2
財団引継資料	写真類4	002	015 (*日本社会民俗辞典第3巻掲載写真「まるた船(諏訪湖)」ほか、木造船に関する版本の接写写真など)	61
財団引継資料	写真類4	002	016 (*アチック・ミュージアム彙報第7『上伊那川島村郷土誌続編』挿絵写真、およびアチック・ミュージアム「瀬戸内海島嶼調査写真など」)	16
財団引継資料	写真類4	003		1
財団引継資料	写真類4	004		4
河岡武春資料	河岡1	001	達里集 (*慶尚南道蔚山邑達里の大きな笠を二人で被る少女や平安南道大同郡南申面孝南里の機織pe-t ul、秋田県角館町のヤマゾリ古型など)	12
河岡武春資料	河岡1	002		10
河岡武春資料	河岡1	003	XEQ,RADIO MEXICANA DEL CENTRO S. A. TOSHIBA MUSIC (FAMILIAR JAPANESE CHILDREN'S SONGS) JH-02006 August 8th. 1959 (Saturday) 宮本馨太郎作 (*静岡県田方郡トボガサや静岡県賀茂郡モヅリバンテン、静岡県田方郡ナガアシ、静岡県田方郡モモヒキなど)	12
河岡武春資料	河岡1	004	港区芝三田綱町一〇 渋沢敬三様(裏面) 筈集 広[ ]写真 ほしい (*筈やサガリ、アミクッ、ズなど)	15
河岡武春資料	河岡1	005	東京都港区 芝三田綱町一〇 澁澤敬三先生 □□□(裏面) 二月五日 杉本□□ (*八戸市の洗濯場や小井川氏より田口氏への手紙、スケッチ、杉本氏より澁澤先生への手紙など)	7
河岡武春資料	河岡1	006	瞬間の累積 アチック集<国際電□> Mr.Keizo Shibusawa, President Kobusai Denshin Denwa Co.,Ltd. Mitsubishi #21 Bldg., 3rd Floor #2, C-chome Marunouchi Chiyoda-ku, Tokyo Japan P2-E 113 (*柏葉拾遺より旅語凡例部分切り抜きや旧水産史研究室、旧民具室、綱町邸、小川徹・市川信次の写真、アチック屋根裏展示写真など)	14
河岡武春資料	河岡1	007	瞬間の累積 伊豆 式根、神津<澁澤敬三殿> 藤木喜久磨作 (*新潟ハマンモリ風除の垣や新島羽伏浦、新島クルマキド、新島ナマグサオケなど)	19
河岡武春資料	河岡1	008	瀬戸内集 (*香川県岩黒島の集落や岡山県カシキアミ、愛媛県ササとネズミを積んだ薪木船など)	10
河岡武春資料	河岡1	009		1
河岡武春資料	河岡1	010		5
河岡武春資料	河岡1	011		1
河岡武春資料	河岡1	012	17.9.25 白髪太郎写真 淡路洲本 前野正博氏 シラガタロウ <佐々木喜善> シラガタロウ (*クスサンの幼虫や繭、成虫など、シラガタロウとはクスサンの幼虫の俗称)	12
河岡武春資料	河岡1	013		12
河岡武春資料	河岡1	014	米田村 鉤針 製造 <台湾>米田村鉤針製造 <鹿野氏分> 米田村鉤針 (*米田村鉤針製造など)	7
河岡武春資料	河岡1	015		1
河岡武春資料	河岡1	016	千代田区大手町一の一五 国際電信電話 顧問澁澤敬三殿 足半集 (*足半作り作業や足半レントゲン写真、上野西郷像の足半など、「所謂足半について」の版下カ)	12
河岡武春資料	河岡1	017	信仰用具 祭具品10 サイノカミの棒、ワラウマ、ヤス、十五日札ノツト、ケヅリカケ、弓矢、馬子ツナギノ藁馬、お供へ餅、山の神、キネとウス、カタナ 信仰用具 (*栃木県河内古里村サイノカミの棒や岩手県上閉伊金澤ワラウマ、愛知県北設楽園村足込ヤスなど)	11
河岡武春資料	河岡1	018	内房写真 (*内房平郡絵図や大根洗いの絵図、魚を釜で煮ているところの絵図など)	6
河岡武春資料	河岡1	019	2. 津軽の砂丘 完 保谷 (*日本民族博物館予定敷地【西方】や日本民族博物館予定敷地【南方】、日本民族博物館予定敷地【北方】など)	5
河岡武春資料	河岡1	020	単織機 (*篋・杆など)	1
河岡武春資料	河岡1	021	<15 最上紅花> 物売 浜谷浩 (*封筒のみ)	0
河岡武春資料	河岡1	022	29 石神村 瀬戸内海 (K・M) (*マエダレやハイガイドリ、マンチューカゴ、ワワラなど)	52
河岡武春資料	河岡1	023	東京<市>都港区芝<区>三田綱町十番地アチックミュージアム 澁澤敬三様<行> 竹の下駄 竹のゲタ、海のヤロ (裏面) 港区芝高輪南町五三 林彌一郎 十月三十日 (*林彌一郎から澁澤敬三に宛てた「竹下駄」「海ノヤロ」についての質問への回答)	0
河岡武春資料	河岡1	024	東京都港区三田綱町一〇 渋沢様方 宮本常一様(裏面) 出雲ハゼ (*島根県松江市栄町北垣文市商店内織・桐油絞り工場やハゼの木カ、山間の風景など、『稲塚和右衛門著 木実方秘伝書』まえがきに関するものカ)	5
河岡武春資料	河岡1	025	<24. 25. 26. 東北ノ塩> 内浦 銅版 (*富士山を遠望に望む内浦や古文書接写、御林絵図など)	23
河岡武春資料	河岡1	026	■(■はチェックマーク) 1. 金と米 中尊寺 金堂 内陣の図 記念写真 完 (*本牧釣った鯛を持つ留吉と澁澤敬三や十島集合写真、洛月島の金支鑪を迎えての集合写真、洛月島の金支鑪と澁澤敬三、綱町邸内で国旗を前にしてのアチック同人との集合写真など)	13
河岡武春資料	河岡1	027	瞬間の累積 隠岐集 (*島根県大根島遠景や島根県大根島半田舟、島根県隠岐浦郷イモグラ、島根県隠岐浦郷二度クサツツリなど)	16
河岡武春資料	河岡1	028	001 626B NO.1 日本常民文化研究所様 撮影場所旧澁沢邸 昭和47年10月25日 キ-3 (*スリーブ状ネガ7つ、ネガ紙焼き7枚、ネガケースなど)、 NO.2 キー4 (*スリーブ状ネガ31、ネガの紙焼き6枚、ネガケースなど)、 NO.3 キー3 (*スリーブ状ネガ31、ネガ紙焼き7枚、ネガケースなど) (*いずれも財団法人日本常民文化研究所出版記念会会場での写真や会場内での様子など)	128

資料単位	資料番号①	資料番号②	資料名(内容)	写真点数
			太字はアルバムの背表紙や封筒に記載された文字情報 (* 内はそれぞれの資料群より推定した内容)	
河岡武春資料	河岡1	028	002 NO.001 常民文化様 場所青年館 昭和49年11月26-27日 254 (*スリープ状ネガフィルムなど、第一回民具研究講座での発表の様子や同講座内民具製作実演、座談会の一カットなど)、 NO.002 常民文化様 場所青山 青年館 昭和49年11月25-26日 良寛 312 (*スリープ状ネガフィルムなど、第一回民具研究講座での発表の様子や同講座内シンポジウムの様子など)	62
河岡武春資料	河岡1	028	003 (* 紙焼き23枚など、財団法人日本常民文化研究所出版記念会会場内での様子)	23
河岡武春資料	河岡1	028	004 常民文化様 承り日11日 出来上り日14日6時 各一引伸 サービスサイズ 数量31@25 金額775 光沢 (* 第一回民具研究講座での発表の様子や同講座内民具製作実演、座談会の一カット、テレビ出演する河岡氏をテレビ画面越しに撮影したものなど)	46
河岡武春資料	河岡1	028	005 虎屋近江 鉄道人写 印 (* 虎屋近江の紙箱【印文は「鉄斎」、写真なし)	0
河岡武春資料	河岡1	029	001 「瞬間の累積 日本常民文化研究所三五周年記念」 (* 濵沢直筆の目次 原稿用紙7枚)	0
河岡武春資料	河岡1	029	002 (* 家屋前の田植え女達や富山県中新川郡上市町白萩アワラの田植の様子、水田の様子など)	6
河岡武春資料	河岡1	029	003 (* 新潟県中頸城郡直江津町字至徳寺正月十五日の行事や高田市北本町での警女の演奏、チョーバコなど)	8
河岡武春資料	河岡1	029	004 (* 新潟県岩船郡三面村布部の犁や高知県室戸市クジラ位牌、鯨モリなど)	4
河岡武春資料	河岡1	029	005 (* 「昭和十一年十一月一日 白川～棚倉ハイキング」(福島県西白河郡白河町クサミノや福島県東白河郡棚倉町ポンチョ型上着、新潟県岩船郡三面村布部入口の一つの家など)	13
河岡武春資料	河岡1	029	006 (* 味野町萩野正孝邸前での記念写真)	1
河岡武春資料	河岡1	029	007 (* 三重県英虞郡和具村アマゴヤの内部や三重県英虞郡御座村軒先で海女の道具類を広げこちらを指さす女性と子供、三重県英虞郡和具村船上から海に飛び込む海女など)	5
河岡武春資料	河岡1	029	008 (* 新潟県北魚沼郡湯三谷村上折立「横道の亀太郎 熊に噛まれた顔」など)	2
河岡武春資料	河岡1	029	009 (* 藤塚浜、福島潟、寺泊、野積、阿賀野川鮭網・網引の様子やスマキ葛塚など)	21
河岡武春資料	河岡1	029	010 (* 船上の海女や渋沢らによる対馬での海女調査風景など)	4
河岡武春資料	河岡1	029	011 (* 愛知県北設楽郡田口町夏目義吉宅にてアチック同人らと集合写真や同所キリコドウロウ、和歌山県東牟婁郡田原村ドウミチの一枚田など)	7
河岡武春資料	河岡1	029	012 (* 新潟県西頸城郡糸魚川町押上塩田や同所塩田での作業の様子など)	6
河岡武春資料	河岡1	029	013 (* 琵琶湖畔風景や笠など)	2
河岡武春資料	河岡1	029	014 (* 新潟県古志郡二十村野田ベコや同所牛の角付きなど)	2
河岡武春資料	河岡1	029	015 (* 秋田県男鹿乾草を運ぶ様子や同所乾草刈りの様子、塩釜跡など)	4
河岡武春資料	河岡1	029	016 (* 塩釜跡附近や稗室の外観、マヤなど)	4
河岡武春資料	河岡1	029	017 渋沢先生 石神特集 小泉信三氏 茅誠司氏 石坂泰三氏 私見在中 馬場さん (* 岩手県岩手郡御村「森林鉄道インクライン」森林鉄道跡や「仙岩峠途上切通シ」仙岩峠途上、「仙岩峠お助け小屋」など)	7
河岡武春資料	河岡1	029	018 (* 「愛知県北設楽富山村大谷附近」斜めに傷を付けた木や「長野下伊那郡神原村本山」板木を担ぐ四人の男、山間のムラの風景など)	3
河岡武春資料	河岡1	029	019 (* 漁村の風景や陸にて網から魚を取る様子、門松など)	8
河岡武春資料	河岡1	029	020 (* 愛知県北設楽郡本郷町中在家花宿や同所花祭り湯囃し、花祭り鬼の面など)	8
河岡武春資料	河岡1	029	021 (* 蓑を着けナワのようなものを運ぶ三人の女性など)	1
河岡武春資料	河岡1	029	022 (* 栄一・篤二・敬三と親類の集い、濵沢敬三と拵嘉一郎や濵沢敬三と拵一家との集合写真、アチック同人など)	21
河岡武春資料	河岡1	029	023 栗見く荘>新田集 (* 石臼や田靴、琵琶湖畔むしぶろの一形式など)	20
河岡武春資料	河岡1	029	024 (* 原稿用紙7まとめ、瞬間の累積 ねらい、詳細目次、など 原稿・下書きカ)	0
河岡武春資料	河岡1	029	025 渋沢先生 石神村集 小泉信三氏 茅誠司氏 石坂泰三氏 私見在中 馬場さん (* テスリウムや斎藤家家屋、大家斎藤家ヤクヤ、大家斎藤家ジョウイなど)	31
河岡武春資料	河岡1	029	026 昭和五年四月十三日 三田綱町邸花祭 来会者芳名録 (* 原稿用紙1まとめ)	0
河岡武春資料	河岡1	029	027 瞬間の累積 (* 段ボール箱)	0
河岡武春資料	河岡1	030	001 VISCOUNT K. SHIBUSAWA 10TSUNAMACHI MITA SHIBA-KU TOKYO (* レバノン パールバックでの濵沢敬三や藤田嗣治など、外国視察などの風景)	39
河岡武春資料	河岡1	030	002 (* 海水浴の様子や砂浜での子供たち、台湾での石黒忠篤など)	16
河岡武春資料	河岡1	030	003 (* A REAL KING, TWO QUEENS OF CHUM Petersburg, Alaska WORLD'S RECORD SALMONとChilkat blankets of mountain goat woolの絵はがき)	2
河岡武春資料	河岡1	030	004 (* 「精密と包まれた誠実」【ダイヤモンド「私見」に寄稿したもの】や「笹村先生手記 ロダン「鼻欠け」ブロンズの由来」など、原稿類)	0
河岡武春資料	河岡1	030	005 フィルムネガ 台湾 沖繩 花祭 (* 島の遠景やサトウキビを絞る石臼をひく馬、屋敷門、雪中にゴザのようなものを乾す様子、花祭りの鬼の舞、石敢當など)	18
河岡武春資料	河岡1	030	006 CUNARD LINE PLAN "MAURETANIA" (* 英国汽船会社CUNARDの旅船室内の地図)	0
河岡武春資料	河岡1	030	007 (* レバノン パールバックの風景や藤田嗣治、ストーンヘンジ、エルサレムのモスク、新潟県西蒲原郡月潟村角兵衛獅子、コペンハーゲンのドルメン、馬に乗る渋沢敬三、沖繩戦災校舎復興後援会会長就任に関わり糸満を訪れた際の渋沢敬三を歓迎する地元の小学生など、版下に用いるために集めたものカ)	64
河岡武春資料	河岡1	030	008 (* 松森胤保翁肖像写真や同翁が描いた葡萄虫の絵、同翁が描いたドジョウの絵など)	5
河岡武春資料	河岡1	030	009 No.96 故石黒さんの写っているネガ 5月30日 濵澤様 (* 台北後藤長官官邸にて写る後藤文夫と石黒忠篤やテラスにて座る濵澤敬三と石黒忠篤など)	3
河岡武春資料	河岡1	030	010 (* ライオンやペンギン、カバ、カリブーなど、海外の動物園の写真)	4
河岡武春資料	河岡1	030	011 (* 岡山県味野萩野邸前での集合写真や野崎中学の生徒達、三重県鳥羽多徳島桐英会集合写真、エルサレムの街並み、サンパウロ鐘紡工場内の濵澤敬三など、外国・国内調査写真)	20

資料単位	資料番号①	資料番号②	資料名(内容)	写真点数
河岡武春資料	河岡1	030	012 (*天然記念物ホテル鳥賊【魚津名物】の絵はがきや魚津埋没林の絵はがき、海外の古い摺など)	3
河岡武春資料	河岡1	030	013 澁沢様 (*澁澤敬三証明用写真)	1
河岡武春資料	河岡1	030	014 (*長崎国際電話局や同局内写真など)	3
河岡武春資料	河岡1	030	015 三沢市中央通り二丁目 公営住宅第二号 円空上人作 佐井村/甲地村 中道等殿 杉本社 [ ] 御 [ ] 中 [ ] 生 (*十一面観音像や小観音像、えびす・大黒像、原稿など)	14
河岡武春資料	河岡1	030	016 澁澤先生 写真四枚在中 飛田生 (*バタヤ街の風景や飛田氏イレスミなど)	5
河岡武春資料	河岡1	030	017 (*澁澤青淵先生頌徳碑など)	4
河岡武春資料	河岡1	030	018 (*屏風に描かれた書の筆写、詳細不明だが河岡1-30-20と関連カなど、原稿用紙4枚)	0
河岡武春資料	河岡1	030	019 栗原様 (*ペルーリマのチルカ塩地の結晶塩中にあるクラミドモナスSP)	5
河岡武春資料	河岡1	030	020 (*屏風書など、河岡1-30-18と関連カ)	6
河岡武春資料	河岡1	030	021 (*十一面観音が県重宝に指定された報や十和田湖・青森などに関する新聞スクラップなど)	0
河岡武春資料	河岡1	030	022 封筒 (*「リデル」・「澁澤會長様 御写真」・「椎名様」【博多大丸8mmシネの封筒】)	0
河岡武春資料	河岡1	030	023 魚名□ (*段ボール箱)	0
河岡武春資料	河岡1	031	民具説明手紙(昭和九年頃) (*「民具説明」【書簡類綴】)	1
河岡武春資料	河岡1	032	民具図彙?<農業用具 件数40> (*テショカゴの参考図スケッチ並びに参考説明版下カなど)	3
河岡武春資料	河岡1	033	001 (*葦山の反射炉や仙台元テニグ先生邸、古志郡二十村の闘牛、大島沖の船上にいる澁澤敬三、菅真澄の墓、「Welcome to GREENFIELD VILLAGE」【町の案内図カ】、江戸川河口附近トレース地図など)	64
河岡武春資料	河岡1	033	002 東京都港区芝三田綱町 澁沢敬三先生 写真在中(表) 茅ヶ崎市小和田一八二二 鹿野静子(裏) (*鹿野忠雄肖像写真や調査での鹿野氏、鹿野静子手紙一通など)	2
河岡武春資料	河岡1	033	003 「瞬間・計画」 (*封筒)	0
河岡武春資料	河岡1	034	農民日録 挿図 野洲川地区家□ (*ソリテンビンやエリ漁、野洲川絵図、古文書など)	30
河岡武春資料	河岡1	035	(*年代別表、用紙欄外に神奈川大学経済学部とあり、財団常民研以降のものカ)	0
河岡武春資料	河岡1	036	三津町 重田禮志提 (小型) 計拾枚 (*麻ゾーリやマキワ、オゴケ、マギモノ、海ノヤロ、ツモ、エリの様子など)	11
河岡武春資料	河岡1	037	(*ソリテンビンでダラを運ぶ女性やソリテンビンの実測図など)	1
河岡武春資料	河岡1	038	(*大日本帝国とロシアそれぞれの国境碑、ロッペン鳥や卵、ギリヤークの女の子、鱈魚の様子、オロッコ族と家、海豹島、オットセイ、宮崎県南那珂郡福島町クケ下駄など)	22
河岡武春資料	河岡1	039	(*瀬戸内わち魚のたも網すくい、救助船光海号水難救済より波止場内に引あげた所、蛸壺縄作業、箱下駄、「安芸三津漁民手記」掲載写真等の説明など)	39
河岡武春資料	河岡1	040	(*新島本村ハジキで遊ぶ少女や新島本村前浜の遠景、地内島、網納屋、漁船など)	15
河岡武春資料	河岡1	041	行徳塩ノ図バン3枚 カチ西□御存和 行徳ノ塩 (*塩採取の絵図接写など)	3

8851

◆凡例

- ・資料名は、背表紙・封筒記載があるものは極力そのままを資料名とした。背表紙・封筒記載がないものはアルバム内キャプション情報や内容などから勘案して付した。尚、「( )」は資料群のそれぞれの内容や内容から鑑みて推定した内容。
- ・備考には背表紙・封筒等に題名として記載があるものを原文のままあげた。尚、封筒や包紙等が無い場合は「なし」、封筒や包紙等があるが記載がない場合は「記載なし」としている。
- ・□は判読不明文字で字数が確定しているもの(□一つにつき1文字)、[ ]は判読不明文字で字数が不確定のもの。
- ・< >は傍線などで訂正されている元の文字、[ ]中に文字がある場合はもともと印刷されている文字で意味が分からなくなるため資料名に追加記入した。

◆注

- ※1 「特殊部落」とあるが、これは明治期の行政が用いた差別的呼称であり、本来は用いるべき呼称ではない。しかし、常民研では時代性を反映している歴史的資料であると考え、改訂せずそのまま使用した。
- ※2 南方同胞援護会より御返却くださいとあり、借用したものカ

◆資料単位説明

アルバム	・英国印刷用紙寸法でいう「Large Foolscap 1/2」(171×216mm)と「Crown1/2」(190×254mm)版の台紙を綴じたパテントレザー製、または布張・紙製のアルバム・120冊(1～122番まで。内17と121は欠番、51番はアルバムのみで写真無)
写真類1	財団法人日本常民文化研究所から資料を引き継いで収蔵されていた箱に付したカテゴリ番号1。主に写真だが中にはスケッチや図画などもある。
写真類2	財団法人日本常民文化研究所から資料を引き継いで収蔵されていた箱に付したカテゴリ番号2。主に写真だが中にはスケッチや図画などもある。
写真類3	財団法人日本常民文化研究所から資料を引き継いで収蔵されていた箱に付したカテゴリ番号3。ネガフィルム(コマ状)。しかし、紙焼きのみでネガフィルムがないというものが2点ある。
写真類4	財団法人日本常民文化研究所から資料を引き継いで収蔵されていた箱に付したカテゴリ番号4。主にガラス乾板だが中にはネガフィルムが数点ある。
河岡1	財団法人日本常民文化研究所所員であった同氏が仕分けをしたアチック関係資料と、自身のコレクション中、写真や原稿下などをピックアップした箱に付したカテゴリ番号。主に写真だが中にはスケッチや図画、原稿などもある。

## 2) プロジェクト型共同研究の推進 業務報告

第二業務のプロジェクト型共同研究は、昨年度と同じ8プロジェクトについて継続実施した。2010年6月20日の第1回運営委員会において、それぞれのプロジェクトから提出された研究計画と予算が記された交付申請書を審議し、以下の8プロジェクト班が承認された。

1-1「漁場利用の比較研究」プロジェクト班（田和正孝ほか4名）、1-2「日本列島周辺海域における水産史に関する総合的研究」プロジェクト班（伊藤康宏ほか9名）、1-3「環太平洋海域における伝統的造船技術の比較研究」プロジェクト班（後藤明ほか9名）、2-1「民具の名称に関する基礎的研究」プロジェクト班（神野善治ほか9名）、2-2「東アジアの民具・物質文化からみた比較文化史」プロジェクト班（角南聡一郎ほか8名）、3-1「アジア祭祀芸能の比較研究」プロジェクト班（野村伸一ほか8名）、4-1「アチックフィルム・写真にみるモノ・身体・表象」プロジェクト班（高城玲ほか5名）、5-1「第二次大戦中および占領期の民族学・文化人類学」プロジェクト班（泉水英計ほか6名）。

それぞれのプロジェクト班では、昨年度の継続として、共同研究会、国内調査、海外調査を行なった。その実施状況については、後掲の「活動日誌」における「プロジェクト型共同研究の推進」の項目で時系列的に記録がある。また、「事業の年間活動状況」の表では、プロジェクトごとに活動内容が表化され、いつどのプロジェクトがどのような活動を行ったのかが一目でわかる。

### ○共同研究会

それらの資料をもとに総括的にまとめると、共同研究会は、主に神奈川大学日本常民文化研究所の資料調査およびプロジェクト内の研究報告を中心にすべてのプロジェクト班において1回以上実施され、全体でのべ14回もの研究会が開かれた。

### ○調査研究

調査研究は、プロジェクト班での共同調査と各個人の調査に分けて実施されている。今年度は、全体でのべ78回の調査研究がおこなわれ、そのうち23回が海外調査研究となっている。プロジェクト共同研究者と国外研究協力者は82名であるが、調査研究は回数であり、のべ人数では100名を超えているので、ほぼすべての共同研究者が調査研究に参加したということになる。2010年度においても活発な調査研究が行われたといえることができる。

### ○公開研究発表会

さらに、12月に行われた第2回国際シンポジウムの第一日目は、公開研究会として1-3、2-1、2-2のプロジェクト班のメンバーが、それぞれの研究を報告した。

セッション1は、2-1プロジェクト班が「民具名称の諸問題」として、河野通明「検索タグとしての標準名－農具の歴史を踏まえて－」、佐々木長生「民具名称のなりたち－奥会津只見の事例から－」、川野和昭「比較文化研究のための民具名称－ラオス北部と南九州の現場から－」の3名の発表があり、八重樫純樹氏のコメントを踏まえて討論が行われた。セッション2は、「民具からみる東アジアの比較文化史」と題して2-2プロジェクト班から植林啓介「『中国』文化形成の基層性と多様性」、小熊誠「沖縄と福建における亀甲墓をめぐる比較研究」、朽木量「現代民具に『消費者の生産』を読む－石垣島の農具変遷を中心に－」の3名が発表し、角南聡一郎氏と何彬氏がコメントを加えた。第3セッションは、「フ

「ネとカラダーフネの構造と槽法」として1-3プロジェクト班から赤羽正春「身体活動の延長上にある北方船の技術－アムール川のムウとオモロチカー」、板井英伸「手櫂（パドル）と民俗－トカラから八重山まで」、昆政明「櫓・櫂の操作と絵画表現」の発表があり、門田修氏と洲澤育範氏のコメントが出された。

総括として、運営委員の小川直之氏のまとめがあり、100名以上の参加者を得て充実した公開研究会を実施することができた。

このように、各プロジェクト班の中間報告的な公開研究会が昨年度に引き続き実施され、第二業務であるプロジェクト型共同研究の活動も順調に進んでいると評価できる。

(小熊 誠)

### 3) 事業運営の総合的推進 業務報告

学際的・国際的な共同研究拠点の確立を目指した、昨年度に引き続き機構運営委員会の主導のもとに、国際シンポジウム、学術交流、共同研究に関する研究会の開催、ホームページの整備などを推進した。

#### ○ 国際常民文化シンポジウムの開催

昨年度に引き続き、第2回国際シンポジウムを開催した。共通テーマは、「“モノ”語り－民具・物質文化からみる人類文化」(2010年12月11、12日)で、第1日目に行われた公開研究会では、「民具の文化資源化－“モノ”研究の新たな挑戦－」と題し、民具・物質文化に関連する三つの共同研究班のメンバーが、それぞれの研究成果を披露、報告するとともに討議を行った。2日目は、「“モノ”と“ヒト”の人類文化史」と題して、フランス・中国・アメリカの研究者を交え、民具の国際標準名作成をめぐる問題を中心に議論を行った。参加者は二日間延べ267人を数えた。

#### ○ 海外研究機関とのネットワーク形成

昨年度、中国の中国海洋大学海洋文化研究所(青島)、上海海洋大学(上海)および韓国の釜慶大学校海洋文化研究所(釜山)、慶北大学校嶺南文化研究院(大邱)と学術交流についての覚書を締結した。これらの覚書に従って、海洋文化に関する具体的学術交流として、上海海洋大学主催の海洋都市の発展に関するシンポジウムに参加し、研究報告を行った(2010年12月)。また、同じく上海海洋大学と共同で、日中漁村の比較研究のため中国の舟山列島蟻島を候補地として予備調査を行った(2011年3月)。また、韓国木浦大学校島嶼文化研究院と学術交流及び多島海での共同調査を行うための予備交渉をはじめた。常民文化資料の体系化・データベース化方面では、慶北大学校嶺南文化研究院主催の国際シンポジウム「東アジアの物質文化と日常生活」(Material Culture and Everyday Life in East Asia－Historical Perspectives)で、機構の取り組みを報告した(2010年7月)。

#### ○ 公開研究会の開催

昨年度第1回に引き続き、人文社会科学における望ましき共同研究のあり方を討議するために機構運営委員会の主催のもとに公開研究会を行った。第2回として「柳田国男と全国山村調査」(講演者：由谷裕哉、2010年6月20日)、第3回として「和歌森太郎の民俗学－民俗総合調査を中心に－」(講演者：柏木亨介、2010年9月25日)、第4回として「『歴史知

識学』の創成研究：歴史知識の発見・発信研究」(講演者：石川徹也、2011年2月17日)を開催し、共同調査論を中心に検討を行い、従来の人文社会科学系における共同研究を超える方向性を論議した。

#### ○ ホームページの整備－活動成果の情報化・公開化

昨年度、国際常民文化研究機構の日本語版と英語版のホームページを立ち上げて、国際常民文化研究機構に関する情報公開を進めたが、今年度は、プロジェクト型共同研究の成果および国際シンポジウムの成果などを随時公開していくとともに、中国語版と韓国語版のホームページ作成を準備した。刊行物として、2010年10月には「国際常民文化研究機構

年報1」を刊行、平成21年度の共同研究の活動状況等を報告した。12月には「国際シンポジウム報告書Ⅰ 海民・海域史からみた人類文化」を刊行、平成21年度第1回国際シンポジウムの概要を報告した。両者とも関係機関、研究者コミュニティに配布した。

#### ○ 共同研究の円滑な運営と国際化を含む事業の総合的推進

機構運営委員会を2回開催して、機構運営の公正性と公共性を担保するとともに、運営委員会主催で共同研究に関する研究会を開催して、望ましき共同研究の在り方を検討した。また、学内運営委員会8回を開催、事業運営・活動の審議を行った。また、共同研究班相互の連携を図り、共同研究について意見交換を行うために第二業務の共同研究担当と連携し、共同研究代表者会議を行い、研究班相互の研究協力の可能性について議論した。さらに、国立民族学博物館、南山大学人類学研究所など本研究機構と国内における他の研究組織との研究協力の可能性についても意見交換を行った。

(佐野 賢治)